熱血！アニメゲームリーグ戦

阪神虎之介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
熱血！アニメゲームリーグ戦

【Ｎコード】
Ｎ６４３９Ｚ

【作者名】
阪神虎之介

【あらすじ】
作者さん達のチームも参加するリーグ戦が幕を開ける！！
それぞれの作品から出てきたみんなが白球を追いかける！！

【登場作品】
・けいおん！・けいおん！！・とある魔術の禁書目録・とある科学の超電磁砲・スーパーマリオブラザーズ・ドンキーコング・ドラえ

もん・こちら葛飾区亀有公園前派出所・ポケットモンスター・ウルトラマンシリーズ・ウルトラマンゼロ・海賊戦隊ゴーカイジャー・けいおん！在校生編・けいおん！大学生編・ぷよぷよ・ポケットモンスターｓｐｅｃｉａｌ・ドラベース・バワプロくんポケットシリーズ・魔法少女リリカルなのは・プリキュアシリーズ・俺の妹がこんな可愛いわけがない・（ボボボーボ・ボーボボ）

チーム紹介（前書き）

開催の理由は「色んな作品との交流」と考えてもらってください。

後あまり考えずに野球だけ考えてください。

試合はプロ野球の試合を参考にしています。

チーム紹介

【小説ウィテングス】

監督・阪神虎之介

作者さん達で集めたチーム。左腕のエースｉｋｋｉを筆頭にコンピューター紀葉等個性的な選手が集まる。

【桜ヶ丘ティータイム】

監督・山中さわ子

「けいおん！」のメンバーだけで集めたチーム。変則投法の平沢唯に恐怖の3番打者平沢憂の平沢姉妹を筆頭に投打共に充実している。

【学園都市ゴールデンガールズ】

監督・木山春生

「とある科学の超電磁砲」の女性キャラのチーム。

一番御坂、二番初春のコンビにエースで四番の佐天が機能すれば壊滅的な打線となるが弱点は打線重視のチームの為、一回押さえ込まれるとダメになる。

【マリオマリナーズ】

監督・マリオ

「マリオ」のチーム。

エースドンキーの球質の重さは論外。マリオルイージ兄弟のクリーンアップ次第で勝敗が左右される。

今はどうか知らないけど昔任天堂がシアトルマリナーズのスポンサーだった関係でチーム名が「マリナーズ」になった。

【ジャイアンズ】

監督・剛田武

ご存じ「ドラえもん」のチーム。

監督兼エース兼主砲の剛田武のワンマンチームかと思えば、天才出木杉、未来の猫型ロボットドラえもん等伏兵が多い。調子こいてると普通に負けます。

【インデックス】

監督・一方通行

「とある魔術の禁書目録」からのチーム。

能力の問題で一方通行が監督に回ったがフラグ建築士上条、タバコを吸う１４歳ステイル、妹思いの主砲土御門のクリーンアップが特徴。

【ポケットモンスターズ」

監督・オーキド

「ポケットモンスター」のチーム。

【亀有ポリスマンズ】

監督・両津勘吉

「こちら葛飾区亀有公園前派出所」のチーム。
「両さん」のこと両津勘吉を筆頭に長年「ジャンプ」に連載された力を武器に戦う！

チーム紹介（後書き）

開幕戦

「小説ウィテングスＶＳ桜ヶ丘ティータイム」

【小説ウィテングスｖｓ桜ヶ丘ティータイム】試合開始前

～ＱＶＣマリンフィールド～

幕張メッセの隣にある球場だ。

開門時間前から球場の周りには大勢のファンが詰めかけている。

～球場内～

「小説ウィテングス」の面子が試合前のミーティングを行っている。

阪神虎之介
「今回はお集まり頂きありがとうございます」

この作品の作者で一応監督をやる阪神虎之介。ポジションはどこでもやる予定。

阪神虎之介
「皆さんもそうですよ」

ｉｋｋｉ
「そうですか…」

ｉｋｋｉさん。中日ファンである。左投げのアンダースローから繰り出されるシンカーが武器である。投手の為、中日の投手応援歌を使う。

セブンの独り言
「まぁ俺はどこでもやれるけど」

セブンの独り言さん。

強肩強打の捕手。広島東洋カープの石原慶幸選手の応援歌を使う。

しら
「楽しみです！」

しらさん。守備も出来るし打撃も出来る。最高の打者である。千葉ロッテの根元の応援歌を使用。

ｓｃａｒｌｅｔ
「やってやろうじゃん！」

ｓｃａｒｌｅｔさん。千葉ロッテファン…所謂マリサポである。急遽電話で作者に「やっぱり細谷に変えて」と言ってきたので千葉ロッテの細谷の応援歌使用。

紀葉
「初戦はけいおんですか」

紀葉さん。頭脳明晰な打撃を持っている。伝説的な守備も魅せる。福岡ソフトバンクの内川選手の応援歌使用。

ウルトラマンゼロ
「勝つぞ！」

ウルトラマンゼロさん。身体能力抜群のヒーローである。ＤＲＥＡ

ＭＦＩＧＨＴＥＲを応援歌使用。

鷹峯
「やりますか」

鷹峯琟さん。守備が上手く、常にヘッドスライティングの精神を持つ。東京ヤクルトの田中浩康の応援歌使用。

千歳涼介
「けいおん叩きますか！！」

千歳涼介さん。堅実な守備と打撃が持ち味だ。

双樹槇
「昨日は寝れませんでしたよ」

双樹槇さん。足が速く、トップバッターの理想である。千葉ロッテの岡田を応援歌使用。

阪神虎之介
「この日の為に千葉ロッテマリーンズ、阪神タイガース、中日ドラゴンズ、東京ヤクルトスワローズ、福岡ソフトバンクホークスの応援団の方々が来てくれました」

ｓｃａｒｌｅｔ
「オォ～」

ｉｋｋｉ
「洗脳応援か」

阪神虎之介
「では本日のスタメンを発表します」

?:双樹槇（右）
?:鷹峯琇（左）
?:紀葉（三）
?:ウルトラマンゼロ（遊）
?:しら（一）
?:セブンの独り言（捕）
?:千歳涼介（中）
?:ｓｃａｒｌｅｔ（二）
?:ｉｋｋｉ（投）

阪神虎之介
「それでは初戦絶対勝つぞ！！！」

全員
「オォ！！」

～フィールド～

「桜ヶ丘ティータイム」の選手が打撃練習を行っている。

ちょうど始まった時と開門の時間が被るのでファンが入ってきた。

山中さわ子

「来たわね…」

【小説ウィテングスｖｓ桜ヶ丘ティータイム】試合開始前（後書き）

出ていない作者さんも試合中は絶対出しますので。

後活動報告の「始めました。」の所注意を見といてください。

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】スタメン発表（前書き）

スタメン発表は懲りました（笑）

作者さん呼び捨てなのは勘弁してください。

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】スタメン発表

～試合開始３０分前～

アナウンス
「それでは両チームの監督によるスタメン交換です」

阪神虎之介
「はいはい」

山中さわ子
「じゃ行ってくるわ」

阪神虎之介と山中さわ子はホームベースに行く。

敷田
「今日の責任審判の敷田です」

阪神虎之介
「よろしくお願いします」

山中さわ子
「こちらこそ」

アナウンス
「お待たせしました。只今よりリーグ戦第1回戦小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイムのスターティングラインアップ及びアンパイアを発表致します。まず先攻の桜ヶ丘ティータイム、一番、ショート、中野梓」

【パラララ～】「そ～れ、あ・ず・さ！！」
アナウンス
「二番、ライト、秋山澪」

【パラララ～】「そ～れ、み～お！！」
アナウンス
「三番、サード、平沢憂」

【パラララ～】「そ～れ、う～い！！」
アナウンス
「四番、キャッチャー、田井中律」

【パラララ～】「そ～れ、り～つ！！」
アナウンス
「五番、ファースト、琴吹紬」

【パラララ～】「そ～れ、む～ぎ！！」

アナウンス
「六番、レフト、真鍋和」

【パラララ～】「そ～れ、まなべ！！」

アナウンス
「七番、セカンド、鈴木純」

【パラララ～】「そ～れ、じゅ～ん！！」

アナウンス
「八番、センター、奥田直」

【パラララ～】「そ～れ、奥田！！」

アナウンス
「九番、ピッチャー、平沢唯」

【パラララ～】「そ～れ、ゆ～い！！」

【パ～ラララ～、パ～ラララ～、パッパッパ、パッパッパ、パ～パッパッパ～】

応援団長
「そ～れ！！」

【パパパパ～パパパッパ～パ～パ～パパパパ～】「オ～、ハイ！！」
【パパパパ～パパパッパ～パ～パ～パ～パパパパ～】「そ～れ

ハイハイハイ！！」

アナウンス
「続きまして、後攻の小説ウィテングス！！一番、ライトォ双樹槇」

【ダダン】「ふ～た～き！」【ダダン】「ふ～た～き！」【ダダン】
「ふ～た～き！」

アナウンス
「二番、レフトォ、鷹峯珱！」

【ダダン】「鷹峯！」【ダダン】「鷹峯！」【ダダン】「鷹峯！」

アナウンス
「三番、サードォ、紀葉」

【ダダン】「のーりーは！」【ダダン】「のーりーは！」【ダダン】
「のーりーは！」

アナウンス
「四番、ショート、ウルトラマンゼロ！」

【ダダンダン】「ゼロ！」【ダダンダン】「ゼロ！」【ダダンダン】
「ゼロ！」

アナウンス
「五番、ファースト、しら！」

【ダダン】「し～ら」【ダダン】「し～ら」【ダダン】「し～ら」

アナウンス
「六番、キャッチャー、セブンの独り言！」

アナウンス
「七番、センタァ、千歳涼介！」

【ダダン】「ち、と、せ！」【ダダン】「ち、と、せ！」【ダダン】
「ち、と、せ！」

アナウンス
「八番、セカンド、ｓｃａｒｌｅｔ！」

【ダダンダン】「ｓｃａｒｌｅｔ！」【ダダンダン】「ｓｃａｒｌｅｔ！」【ダダンダン】「ｓｃａｒｌｅｔ！」

アナウンス
「九番、ピッチャー、ｉｋｋｉ！」

【ダダッダン】「ｉｋｋｉ！」【ダダッダン】「ｉｋｋｉ！」【ダダッダン】「ｉｋｋｉ！」

【ピッピッピーピーピ！】「オ～、ロッテ！！」

阪神虎之介
「あ！応援団リードミスしやがった！」

アナウンス

「アンパイアは主審敷田、塁審、一塁村田、二塁三出川、三塁小寺、
公式記録員は中村、試合開始までしばらくお待ちください」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】スタメン発表（後書き）

桜ヶ丘ティータイムには広島東洋カープの応援団と横浜ベイスターズの応援団が来てます。

小説ウィテングスのスタメン発表は千葉ロッテマリーンズのスタメン発表そのままです。

興味がありましたらＹｏｕＴｕｂｅに投稿されているので

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】試合開始！1回表

試合開始直前に阪神虎之介が円陣を組む。

阪神虎之介
「それでは頑張ってください！後、風速１２Ｍなのでお気をつけて（笑）」

ｉｋｋｉ
「マジかよ！？」

ＱＶＣマリンフィールドは海風の影響で風が強い時がある。過去に「強風による中止」があるほどだ。

今回はバックネット方向に１２Ｍの風が吹く。

アナウンス
「それでは小説ウィテングスの選手が守備に着きます。」

応援
「ワ～！」

ｉｋｋｉ
（嫌だな～、マリンで風が強いのは）

「ｉｋｋｉ！ｉｋｋｉ！ｉｋｋｉ！ｉｋｋｉ！」

スタンドからｉｋｋｉさんを応援するコールが聞こえる。

アナウンス
「一回の表、桜ヶ丘ティータイムの攻撃は一番、ショート、中野梓！」

桜ヶ丘ティータイムはアウェイなので入場曲は無しである。

応援
「かっ飛ばせ！かっ飛ばせ！あずさ！かっ飛ばせ！かっ飛ばせ！あずさ！」

敷田主審
「プレイ！」

ｉｋｋｉ
（最初どうします？）

セブンの独り言
（打ち上げるのは厳禁！低めにシンカーを）

ｉｋｋｉ
（了解）

ｉｋｋｉさんが振りかぶって投げる！

【ピシュ！】

中野梓
（ボール…）

敷田主審
「ストライク！」

中野梓
「え？」

セブンの独り言
「ナイピー！」

ｉｋｋｉ
「ふぅ」

セブンの独り言
（次も低めにシンカー…）

ｉｋｋｉ
（了解）

【ピシュ！】

中野梓
（これはストライク？）

【バシ！】

敷田主審

「ストライクツゥ！」

中野梓
「えぇ！」

平沢唯
「あ～ずにゃ～ん、バット振らなかったらアウトだよ～」

真鍋和
「唯…」

平沢唯
「なに？」

真鍋和
「マトモな事言うわね…」

中野梓
（次は…）

セブンの独り言
（内角低めに直球）

ｉｋｋｉ
（ＯＫ）

【ピシュ！】

中野梓
（来た！）

【カキィン！】

セブンの独り言
「しまった！」

紀葉さんとウルトラマンゼロさんの間を…

ウルトラマンゼロ
「シュワ！」

中野梓
「ゲッ！」

しかしそのまま一塁送球するが…

【バシ！】

【ダン！！】

しら

「アウト！」

村田塁審
「セーフ」

中野梓
「にゃあ～」

奥深った為、内野安打に…

ｉｋｋｉ
「クッソ…」

アナウンス
「二番、ライト、秋山澪」

応援
「決めろ！決めろ！澪！決めろ！決めろ！澪！」

「決めろ！」とは送りバントの事である。

実際秋山澪はバントの構えだ。

紀葉
（前進、前進）

しら
（内野は全員前進してるな…）

ｉｋｋｉ
（高めに投げたい）

セブンの独り言
（高めに…）

ｉｋｋｉ

（よしきた）

【ピシュ！】

【カキィン！】

ｉｋｋｉ
「あ！」

まさかの秋山、バスターで打つ。

しかしボールに力無く、セカンドｓｃａｒｌｅｔのフライ…

ｓｃａｒｌｅｔ
「え？え？」

ｉｋｋｉ
「はぁ～」

しら
「うそぉ！」

一塁の方向に来て１、２塁間にポトリ

その隙に一塁ランナーは三塁へ

いきなり無死１、３塁のピンチ！

セブンの独り言

「今のがマリンの恐怖…」

しら
「１２Ｍって凄いですね」

紀葉
「憂でゲッツに取りましょう！」

ｉｋｋｉ
「あぁ、この際１点はあげるわ」

アナウンス
「三番、サード、平沢憂」

セブンの独り言
（…しかし高めだと風でどうなるか分からないし低めは読んでるだろうな…）

ｉｋｋｉ
（様子見を）

セブンの独り言
（様子見るかぁ）

【ピシュ！】

敷田主審
「ボール！」

ｉｋｋｉ
（それで内角にシンカー…）

セブンの独り言
（外角にシンカーを）

ｉｋｋｉ
（いや内角に）

ｉｋｋｉさんが顔を横に振る。

セブンの独り言
（じゃあ内角？）

ｉｋｋｉ
（そうそう！）

ちなみに平沢憂は

平沢憂
（ｉｋｋｉさんのさっきの振りはセブンさんが内角要求したのを外角にしてくれって頼んだんだわ）

ｉｋｋｉ
（ほい！）

【ピシュ！】

平沢憂
「しまった！」

ついバットが出てしまう。

【カァキン！】

フライだ！

ｉｋｋｉ

「キャッチャー！」

セブンの独り言

「オーライ！」

しかし打球は…

フェアゾーンからファウルゾーンへ…

セブンの独り言

「とっとっと…あ！」

セブンの独り言さんが足を滑らし、転倒しかけ打球が

敷田主審

「アウト！」

セブンの独り言

「え？」

紀葉
「間に合った…」

三塁から全速力で走ってきた紀葉さんがスライディングキャッチを決めた！

ライトスタンド（小説側）
「オ～！」

平沢憂
「凄い…」

平沢憂も感服するしかない。

アナウンス
「四番、キャッチャー、田井中律」

すると今まで流れていた。「広島東洋カープチャンステーマ？」から元千葉ロッテマリーンズの西岡剛選手の２００９年までの応援歌「カチューシャ」に変わった。

応援「オ～オ～オ～オ～オオ～オ、オ～オ～オ～オオオ…」

ｉｋｋｉ
（むしろ…律より憂の方が怖かったｗ）

セブン独り言
（低めを引っ掛けましょう！）

【ピシュ！】

田井中律
「もらったぁ！」

【カキィン！】

ｓｃａｒｌｅｔ
「はぁい♪」

ｓｃａｒｌｅｔが取って二塁へ

ウルトラマンゼロ
「そ～れ♪」

二出川塁審
「アウト！」

リズムに乗ってウルトラマンゼロさんが一塁へ

しら
「アウト♪」

村田塁審
「アウト」

田井中律
「ぎゃあ！」

４－６－３のダブルプレー！

無死1、3塁のピンチからｉｋｋｉさんが乗り切った。

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】試合開始！1回表（後書き）

桜ヶ丘―0
小説　―

桜ヶ丘
平沢唯／田井中

小説
ｉｋｋｉ／セブンの独り言

【一回表】

？中野梓

２ストライクと追い込まれたがレフト前にヒット。

？秋山澪

送りバントの構えを見せたがヒッティング、１２Ｍの風も味方しライト前にヒット。

？平沢憂

狙いを外されキャッチャーフライと思いきや、またしても１２Ｍの風が邪魔するが、三塁紀葉が好補。

？田井中律

攻撃的な打撃が裏目に出て、４－６－３のダブルプレー。

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】1回裏（前書き）

途中で作者さんの名前が呼び捨てになっている箇所がございます。

ご了承ください。

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】1回裏

桜ヶ丘ティータイムの攻撃が終わり、桜ヶ丘ティータイムの選手が守備につく。

阪神虎之介
「先発平沢唯ですか」

ｉｋｋｉ
「どうなんだろ？彼女？」

平沢唯
「行くよりっちゃん！」

田井中律
「来い唯！」

平沢唯が投球モーションに入った。

阪神虎之介
「なんだあれ！？」

双樹槇
「うわ！」

千歳涼介
「始めてみるなあのフォーム」

紀葉
「変則か」

阪神虎之介
「あっ、でもあれヒラヒラ投法だ！」

ｉｋｋｉ
「よく見るとそうだね」

阪神虎之介
「打てなくは無いだろ？」

双樹槇
「はい」

阪神虎之介が先頭打者の双樹槇さんに話しかける。

アナウンス
「１回の裏、小説ウィテングスの攻撃は、１番、ライトォ、双樹槇」

双樹槇
「ウッシ！」

田井中律
（唯、最初は様子見のボールな）

平沢唯
（うん）

唯が振りかぶって投げる。

【バシ】

敷田主審
「ボール」

双樹槇
（これは様子見だな）

田井中律
（唯、次はコレ）

平沢唯
（うん）

【ピシュ！】

双樹槇
（おっと）

【バス】

敷田主審
「ボールツゥ」

双樹槇
（ボールが手前で落ち込んだ、チェンジアップか？）

双樹槇はそう考える。

田井中律
（唯、決めちゃえ！）

平沢唯
（うん！）

【ピシュ！】

双樹槇
（ストライクゾーンに来た！）

【カキン！】

打ち上げてしまった。

双樹槇
「畜生！」

しかしやっぱり１２Ｍの強風が邪魔し…

バックネットに当たり

敷田主審
「ファールボール！」

双樹槇
「ふぅ～」

田井中律
「え～、こんなのあり？」

双樹槇は構え直す。

ライトスタンドから声援が聞こえる。

「双樹！ヒット！双樹！ヒット！」

双樹槇
（じゃあさ）

平沢唯が投げる。

【コン】

双樹槇
（こんなのもありな訳だ）

サード憂へのセーフティーバント

意表をつかれた憂がボールを素手で掴み投げようとするが

双樹槇
「はいセーフ」

平沢憂
「遅かった…」

俊足の双樹槇が塁に出る。

アナウンス
「二番、レフト、鷹峯琇！」

「黄金魂」の曲に合わせて鷹峯がバッターボックスに入る。

唯は一塁にランナーがいるためクイックになる。

鷹峯
（監督、バントしますか？）

鷹峯は阪神虎之介に「バントするか」の確認をする。

阪神虎之介
（まだいいよ）

それを拒否

阪神虎之介
（ゲッツーでもいいから当たっていけ！）

平沢唯がクイックで投げる。

【ピシュ！】

【カキィン！】

初球を上手くレフトに打った。

「オ～オ～オ～オオ…」

ヒットテーマが流れる。

アナウンス
「三番、サード、紀葉！」

無死1、2塁のチャンス！

打席には主力打者の紀葉さんが立つ。

観客？
「紀葉ァ～、打って～」

観客？
「紀葉さぁん！」
だからチャンステーマ発動である。

紀葉さんの場合、元々の曲が福岡ソフトバンクの内川のヒッティングマーチなので、福岡ソフトバンクの「ワッショイ」がチャンステーマに使われる。

「ワッショイワッショイ！」

紀葉
「すぅ～、はぁ～」

打席の中で深呼吸する。

「紀葉！」

紀葉
（風はセンターから吹いてるから、長打は無理、だから軽打で相手のミスを誘う！）

【ピシュ！】

敷田主審
「ストライク！」

紀葉
（そのためには外角の球が欲しい）

田井中律
（外角にボールを）

平沢唯
（は～い）

平沢唯が振りかぶって投げる。

外角のボールだが

紀葉
（（ ゜∀ ゜）キター！）

【ガキン！】

田井中律
「ボール球を打った!?」

ボールはショートの中野梓の目の前に落ちる。

田井中律
「あずさ!一塁!」

中野梓
「はい!」

一塁に送球し、アウトになったが

アナウンス
「四番、ショート、ウルトラマンゼロ!」

ウルトラマンゼロ
「シュワ!」

大型遊撃手である。

ここで初めて山中監督が動く!

山中さわ子
(敬遠しなさい)

田井中律
(はい)

平沢唯

（わかった、さわちゃん）

そして…

敷田主審
「ボールフォア！」
一死満塁

やっぱりチャンステーマが止まらない！

しら
（よっしゃ）

しらさんが気合いを入れ直す。

田井中律
（外野バック、バック）

外野が微妙に下がる。

「ワッショイ！ワッショイ！」

最早、外野スタンドはお祭り状態だ。

平沢唯
（りっちゃん、私低めに投げたい）

平沢唯が田井中律にそう要求する。

田井中律

（いいよ）

しかしこれが命取りになる。

【ピシュ！】

田井中律

「あ！！」

ボールが高めに来た。

しら

「もらったぁ！」

【カァキィン！】

渇いた音が聞こえた。

レフトの真鍋和が下がる下がる。

がら空きの外野に落ちた。

「ワァァァァァァ！！」

ライトスタンドから歓声があがる。

真鍋和が打球に追いついて投げても既に3人が返ってきてた。

しらのタイムリー3ベースヒットである。

マウンドに集まる桜ヶ丘ナイン

田井中律
「唯ドンマイ、私が悪かった」

平沢唯
「別にいいよ、失投した私も悪いから」

中野梓
「まだ一回ですから」

田井中律
「それより得点されたショックを背負うなよ」

平沢唯
「うん！」

アナウンス
「六番、キャッチャー、セブンの独り言」

セブンの独り言
「ウッシ！」

「続け～、続け～セブン！続け～続け～セブン！」

一死三塁

レフトスタンドに陣取っている広島応援団は複雑な気持ちだ。
なぜならいつもなら自分らがやる曲だから

平沢唯
（どうするの？）

田井中律
（パワーで押すタイプだから低めで）

平沢唯
（は～い）

【ピシュ！】

セブンの独り言
（初球は見送る）

敷田主審
「ボール！」

律は唯にボールを返した瞬間、「力抜け」とジェスチャーした。

平沢唯
「ふぅ～」

一回深呼吸した後、律を見る。

セブンの独り言
（俺みたいなバッターだったらボール球誘って引っ掛けるはずだ）

自分もキャッチャーであるセブンの独り言は律のリードを予測する。

田井中律
（徹底的に低めを攻めるよ）

【ピシュ！】

敷田主審
「ボールツゥ！」

セブンの独り言
（低めを中心に攻めるなぁ）

セブンの独り言は敷田主審にタイムをかけた。

敷田主審
「タァイム！」

セブンの独り言はバットを構え直す。

セブンの独り言
「どうも」

敷田主審
「プレイ！」

田井中律
（低め！低め！）

平沢唯
（うん！）

ちなみに内野はバックホーム態勢である。（前進守備）

【ピシュ！】

セブンの独り言
（これもボール）

敷田主審
「ストライク！」

セブンの独り言
「ぐっ…」

2ボール1ストライク

平沢唯
「ほい！」

【ピシュ！】

【ガキン！】

ボールはファウルゾーンへ

村田塁審
「ファール」

山中さわ子
「アイツ粘るわね…」

セブンの独り言
「ふ～」

平沢唯
「りっちゃんどうしよう～」

田井中律
「落ち着け唯」

セブンの独り言
（低めにヤマはるか）

平沢唯がサインを確認する。

田井中律
（徹底的に低め）

平沢唯が振りかぶって投げる。

【ピシュ！】

低めの直球

【カキーン！】

狙い打ちした。

打球はライトに飛ぶ飛ぶ…

しかし風に戻される。

しら

「タッチアップかな？」

さぁライトの秋山澪が捕球する！

三塁コーチ

「ＧＯ！」

しらさんがタッチアップ！

田井中律

「ノーカット！」

中継しないで直接投げるよう指示。

ライトから良い球が返ってくる！

しらさんがホームベースに突っ込む！

【ズザザザザ…】

判定は…

敷田主審

「セーフ！」

しら
「よっしゃ！」

阪神虎之介
「４点目～」

小説４－０桜ヶ丘

山中監督がマウンドに行く。

山中さわ子
「唯大丈夫よ、落ち着いていきなさい」

平沢唯
「うん…」

アナウンス
「七番、センタァ、千歳涼介」

Ｂ'ｚ「Ｄｏｎ'ｔ　ｗａｎｎａｌｉｅ」が流れる。

千歳涼介
「まさか1回で打席に立つとは…」

阪神虎之介
（初回に４点も取れたのは凄い…）

ｉｋｋｉ
「すいません、俺は準備しといた方がいいですか？」

さっきまでｉｋｋｉさんは鷹峯さんの打席の時からグランドの片隅で投球練習をしていたが、もう七番なので打席に立つ準備をするかと聞いてきた。

阪神虎之介
「う～ん、八番のｓｃａｒｌｅｔさんが打席に立ったら準備しといて」

【カキン！】

阪神虎之介
「あ！！」

二出川塁審
「アウト！」

千歳涼介
「チッ」

阪神虎之介
「ナイスバッティング！」

千歳涼介さんはジャストミーティングしたが、余りにも当たりが良すぎてセカンドライナーに終わった。

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】1回裏（後書き）

1回裏終了

桜ヶ丘　0　―0

小説　　4　―4

桜ヶ丘　平沢唯／田井中律

小説　　ｉｋｋｉ／セブンの独り言

【小説ウィテングス】

？双樹槇

意表のセーフティーバントで出塁。

？鷹峯琇

初球打ちでレフト前ヒット。

？紀葉

上手くショートゴロで後に繋げる。

？ウルトラマンゼロ

敬遠される。

?しら

平沢唯の高めの失投を巧打。普通ならホームランだが１２Ｍの風により３ベース。

?セブンの独り言

ライトへの犠牲フライで４点目。

?千歳涼介

ジャストミーティングしたがセカンドライナー。

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】2回表（前書き）

他球場の途中試合経過

学園都市ゴールデンガールズ対マリオマリナーズ（明治神宮野球場）

学園都市1－0マリオ（2回表終了）

【学園都市投手】
佐天

【マリオ投手】
ドンキー

インデックス対亀有ポリスマンズ（横浜スタジアム）

インデックス0－3亀有（2回表途中）

【インデックス投手】
上条

【亀有投手】
両津

ポケットモンスターズ対ジャイアンズ（わかさスタジアム京都）

ポケット0－6ジャイアンズ（1回表途中）

【ポケット投手】
サトシ一レッド

【ジャイアンズ投手】
剛田

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】2回表

先制のタイムリー3ベースヒットを放ったしらさんに応援団がコールする。

「し～ら」【ダダン】「し～ら」【ダダン】「し～ら」

しら
「ありがとう！」

しらさんがライトスタンドへ応える。

スタンドが湧く。

「ワァァァァァァ！！」

アナウンス
「2回表、桜ヶ丘ティータイムの攻撃は、五番、ファースト、琴吹紬」

「むーぎちゃーん！」

セブンの独り言
（パワーヒッターだ、気をつけろ…）

内野は後退する。

紀葉
（サードに来い、捌いたる）

「む～ぎ！む～ぎ！む～ぎ！」

広島応援団の元、レフトスタンドではスクワット応援が行われる。

セブンの独り言
（最初はボールで）

ｉｋｋｉ
（了解）

【ピシュ！】

琴吹紬
（フフフ…）

【カキィン！】

ｉｋｋｉ
「な！」

外のボール球を振った。

しかも…

しら
「はっや！」

ファーストを抜けた。

しら
「なんだ今の！？」

紀葉
「はぇぇ…」

琴吹紬
「フフフ…」

ｉｋｋｉ
「またノーアウトでランナーか…」

アナウンス
「六番、レフト、真鍋和」

平沢憂同様に打てる６番打者である。

真鍋和
（上手く風に乗せて行けば）

そう考える真鍋和

紀葉
（風に乗せるかも）

ｉｋｋｉさんが振りかぶって投げる。

【ピシュ！】

内角高めの直球だ。

【カキィン！】

それを打つ。

ｓｃａｒｌｅｔ
「とれへんわ」

打球はちょっと押し戻されてセンター前に

千歳涼介
「これで無死１、２塁かぁ」

アナウンス
「七番、セカンド、鈴木純」

紀葉
「タイムお願いします」

小寺塁審
「タイム！」

紀葉さんがマウンドに駆けつける。

紀葉
「ｉｋｋｉさん、４点リードなんでのんびり行きましょうよ」

ｉｋｋｉ
「そうですね、４点取られてもいいんですから」

紀葉さんがサードに戻り、試合再開

山中さわ子
「４点ビハインドよ！この回１点でも多く返すわよ！」

ｉｋｋｉさんが振りかぶって投げる。

【ピシュ！】

鈴木純
「わっ！」

敷田主審
「ストライク！」

鈴木純
（手前で球が伸びてる…）

セブンの独り言
（吹っ切れたようだな）

ｉｋｋｉ
（今の俺はド真ん中に投げても打たれないぜ！！）

セブンの独り言
（外角高めに変化球）

ｉｋｋｉ

（了解！）

【ピシュ！】

鈴木純
「う！」

敷田主審
「ストライクツゥ！」

鈴木純
（今の振ったら確実にゲッツーだった…）

セブンの独り言
（引っかかれよ…）

そう悪態をつくセブンの独り言

セブンの独り言
（それでは内角低めに沈むシンカーで、ボールになってもいいです）

ｉｋｋｉ
（はい）

【ピシュ！】

鈴木純
「これ打てる！」

【カキィン！】

打球はショートへ

ウルトラマンゼロ
「シュワチ！」

ウルトラマンゼロさんが思い切りジャンプするが…

小寺塁審
「フェア！」

レフトへヒット

無死満塁

アナウンス
「八番、センタァ、奥田直」

「誰だぁ～！？」

観客の野次が飛ぶ

今年から始まった「けいおん！在校生編」の新キャラである。

奥田直
「はぁ～…」

果てしなく奥田直は落ち込んでいる。

奥田直
（なんで斉藤さんが選ばれないのですか？）

セブンの独り言
（まぁコイツだったら満塁ＨＲ無いな…）

ｉｋｋｉ
（代打出してやれよ…）

ｉｋｋｉさんも低評価だ。

セブンの独り言
（ここでゲッツーにしますか）

ｉｋｋｉ
（はい）

【ピシュ！】

奥田直
「わぁ！」

敷田主審
「ストライク！」

セブンの独り言
「ビビってんの？」

奥田直
「え…」

セブンの独り言
（雑魚だから別にド真ん中でもいいよ）

ｉｋｋｉ
（はい）

【ピシュ！】

奥田直
「あ！」

【カァキン！】

紀葉
「よっと」

【バシッ！】

小寺塁審
「フェア！」

打球は三塁紀葉へ

紀葉さんが三塁ランナーの琴吹紬を確認すると

ホームフォースアウトには間に合う

しかし紀葉さんは三塁を踏む

小寺塁審
「アウト！」

三塁フォースアウト

紀葉
「セカンドォ！」

セカンドへ送球。

ｓｃａｒｌｅｔ
「よっしゃあ！」

ｓｃａｒｌｅｔさんが二塁踏んでセカンドフォースアウト。

ｓｃａｒｌｅｔ
「しらさん！」

ｓｃａｒｌｅｔさんがしらさんに送球する。

最悪トリプルプレーだが

奥田直
「わぁぁぁ！」

こけたようなヘッドスライテングだが

村田塁審
「セーフ！」

「うぉぉぉぉ！」

ゲッツーだが1点を返した。

小説4－1桜ヶ丘

奥田直
「ハァァ～」

しら
「ナイスファイト」

奥田直
「あ、ありがとうございます…」

アナウンス
「九番、ピッチャー、平沢唯」

「ゆーいちゃーん！」

平沢唯
「よっし！」

セブンの独り言
（コイツは良く分からないな…天然キャラだけに）

ｉｋｋｉ
（どうします？）

セブンの独り言

（とりあえず内角に威嚇）

ｉｋｋｉ
（威嚇ですね）

【ピシュ！】

平沢唯
「ヒャア！」

敷田主審
「ボール！」

阪神虎之介
（危ないな今の…）

セブンの独り言
（やり過ぎ…今の失敗したら危険球退場だぞ…）

ｉｋｋｉ
（威嚇だけに）

セブンの独り言
（次は外角で）

【ピシュ！】

【カキィン！】

ｉｋｋｉ

「よっしゃあ！」

ｉｋｋｉさんが捕球し一塁へ

村田塁審
「アウト！」

無死満塁から紀葉さんのナイス判断力もあり1点で抑えた。

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】2回表（後書き）

桜ヶ丘　０１　―１

小説　　４　―４

【桜ヶ丘】

平沢唯／田井中律

【小説】

ｉｋｋｉ／セブンの独り言

?琴吹紬

目の覚めるような弾道でライトにヒット

?真鍋和

風に上手く乗せてセンターにヒット

?鈴木純

レフト前ヒット

?奥田直

サードゴロで紀葉さんがホームフォースアウトよりゲッツーかトリプルプレーにした方がいいと判断し、ゲッツーに

？平沢唯

内角への威嚇球でビビったのかと思いきや外角のボールは打ったがピッチャーゴロ

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】2回裏

4－1と小説ウィテングス3点リードの中、打席にはｓｃａｒｌｅｔさんが立った。

平沢唯
「よし！」

田井中律
「しまっていくぞー！」

そう叫んで田井中律はマスクを被る

田井中律
（最初はチェンジアップだ）

平沢唯
（うん！）

【ピシュ！】

【カキン！】

田井中律
「セカンドォ！」

鈴木純が華麗に捌いて1アウト。

アナウンス
「九番、ピッチャー、ｉｋｋｉ」

ｉｋｋｉさんが打席に立つ。

ｉｋｋｉ
（俺ピッチャーだからここは三振で行こう）

そして…

敷田主審
「ストライクバッターアウトゥ！」

それと同時に名物の「卍」が見れた。

阪神虎之介
「あれが敷田さんの卍かぁ」

バッターは一巡して一番双樹槇

運動会でお馴染みの「天国と地獄」が流れる。

平沢憂
（またセーフティーがあるかも…）

平沢憂が前進する。

田井中律
（こいつには初球チェンジアップで…、セーフティーがあるかも知れないから）

律もそう考える。

平沢唯
（わかった）

【ピシュ！】

【サッ】

敷田主審
「ボール！」

ちょっと低め過ぎてボール。

田井中律
「次は高めに直球」

平沢唯
「わかった」

【ピシュ！】

すると双樹槇が、バットを持ち替える。

田井中律
「しまった！」

【カキィン！】

バスターである。

前進守備の平沢憂へ流し打つ

平沢憂
「キャア！」

しかし打球は

中野梓
「ニャア！」

中野梓がキャッチ！

そして送球。

村田塁審
「アウト」

３者凡退

阪神虎之介
「嫌だなぁ…この感じ…」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】2回裏（後書き）

【2回裏終了】

桜ヶ丘　０１　―１

小説　　４０　―４

【桜ヶ丘】

平沢唯／田井中律

【小説】

ｉｋｋｉ／セブンの独り言

？ｓｃａｒｌｅｔ

チェンジアップを打つがセカンドゴロ

？ｉｋｋｉ

見逃し三振

？双樹楨

バスターするが中野梓のファインプレーでチェンジ。

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】3回表

アナウンス
「3回表、桜ヶ丘ティータイムの攻撃は一番、ショート、中野梓」

「かっ飛ばせ！かっ飛ばせ！あずさ！かっ飛ばせ！かっ飛ばせ！あずさ！」

レフトスタンドからかっ飛ばせコールが聞こえる。

そしてライトスタンドの一部のファンから

「サードヘライナーあずさ！サードヘライナーあずさ！サードヘライナーあずさ！」

試合中の作者みたいな事をやっているファンがいた…

ちなみにこれを読売の長野にやったら本当にサードライナーになってくれたｗ

そして我らがドヤ顔新井さんと紀葉さんだったら期待度は遥かに違う。

新井＞紀葉

そう話しているうちに2ボール2ストライク

中野梓
「打ってやるです！」

ｉｋｋｉ
（セブンさん…、フルカウントにします？）

セブンの独り言
（ここで勝負を決める！内角に直球！）

【ピシュ！】

中野梓
「にゃあ！」

【カキィン！】

ｉｋｋｉ
「うわぁ！」

ｉｋｋｉさんの股間を破りセンター前ヒット。

山中さわ子
「いいわよ～あなた達」

アナウンス
「二番、ライト、秋山澪」

山中さわ子
（３点差だから送りバンドなんかせずにガンガン行くわよ！）

秋山澪
（むしろバンドしたほうがいいと思う…）

「熱く！熱く！ぶち当たれ！」

秋山澪
「ヒィ！」

突然、レフトスタンドが「ライジングテーマ」が始まった。

※ライジングテーマ…横浜チャンテ

中野梓の応援歌に横浜の石川を使っているため、勢い余った応援団がやり始めてしまった。

阪神虎之介
「この歌いいよね」

秋山澪はガチガチだ。

セブンの独り言
（なんだこいつ、ガチガチに緊張してるな…）

ｉｋｋｉ
（それじゃ外角低めに直球）

【ピシュ！】

敷田主審

「ストライク！」

平沢唯
「みおちゃんリラックス！」

秋山澪はバッターボックスから離れて深呼吸

セブンの独り言
「大変だな」

ｉｋｋｉ
（次…低めにシンカー）

セブンの独り言
（いいよ、ボールにしろ）

【ピシュ！】

秋山澪
「ヒィ！」

【カキィン！】

敷田主審
「ファウルボゥル！」

２ストライクに追い込まれた。

阪神虎之介
「まずこれでバンドは使えない…」

セブンの独り言
（一球間を開ける、ボールにしろ）

ｉｋｋｉ
（了解）

【ピシュ！】

敷田主審
「ボール」

平沢憂
「澪さんしっかり！」

セブンの独り言
（ラスト！）

ｉｋｋｉ
（おぅ！）

【ピシュ！】

【バス！】

敷田主審
「スットライクアウトゥ！」

卍！

秋山澪
「ハァ…」

アナウンス
「三番、サード、平沢憂」
セブンの独り言
（一番嫌なバッターだ…）

ｉｋｋｉ
（初球高めのスライダー）

セブンの独り言
（絶対ボールにしろ）

【ピシュ！】

敷田主審
「ボール！」

山中さわ子
「憂ちゃんファイト！」

平沢唯
「う～い～！」

風は相変わらずの１２Ｍ

セブンの独り言
（低めにお願いします）

ｉｋｋｉ
（了解）

【ピシュ！】

【カキーン！】

紀葉
「くっ…」

打球はサード紀葉の頭上！

フェアかファウルか…

小寺塁審
「フェア！」

ギリギリフェア！

打球はレフトを転々とする。

レフトの鷹峯がようやくフェンスについた打球を送球。

セブンの独り言
「く～…」

一死２、３塁

アナウンス
「四番、キャッチャー、田井中律」

さっきゲッツーに終わった四番打者である。

田井中律
「行くわよ！」

セブンの独り言
（一塁空いてるけど）

阪神虎之介
（敬遠するなよ）

阪神虎之介は外野陣にバックホームの態勢を指示。

山中さわ子
（あっちは外野フライを狙ってるわね）

ｉｋｋｉ
（高めのフライ？）

セブンの独り言
（だから高めに、ボールか分からないような奴）

ｉｋｋｉ
（了解）

【ピシュ！】

田井中律

「よっしゃあ！」

【カキィン！】

ｉｋｋｉ
「外野行ったぞ！！」

センターへ打球が

三塁ランナーの中野梓はタッチアップの構え

千歳涼介
「バックホーム！！」

そう叫んでバックホーム！

三塁ランナー中野梓タッチアップ！

セブンの独り言
「ノーカット！」

ｉｋｋｉ
「おっと」

送球はワンバウンドでホームへ

タイミングは微妙だ

セブンの独り言はタッチするが

セブンの独り言
「タッチタッチ！」

敷田主審
「セーフ」

「ワァァァァァ！」

小説４ー２桜ヶ丘

二塁ランナーは三塁へ

二死三塁

アナウンス
「五番、ファースト、琴吹紬」

さっきはライトへ弾丸ランナーを放った紬がバッターボックスへ

山中さわ子
「いけいけ！」

４点差から２点差に…

阪神虎之介
（あちらさんイケイケムードだなぁ…）

セブンの独り言
（嫌なバッターだコイツも…）

ｉｋｋｉ
（どうします？）

セブンの独り言
（まぁこの風ならパワーがあっても届かないよな）

ｉｋｋｉ
（そうだな）

【ピシュ！】

【カキィン！】

ｉｋｋｉ
「あ！」

【バシ！】

紀葉
「よっし！」

小寺墨審
「アウトゥ！」

三塁ライナー

阪神虎之介
「この回巻き返すぞ！」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】3回表（後書き）

【3回表終了】

桜ヶ丘　０１１　―２

小説　　４０　―４

？中野梓
センター前ヒット

？秋山澪
見逃し三振

？平沢憂
三塁線を突き抜ける２ベースヒット

？田井中律
センターへ犠牲フライ

？琴吹紬
サードライナー

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】3回裏

3回裏開始前に小説ウィテングス側が円陣を組む。

阪神虎之介
「ちょっと場の空気が悪いです」

双樹槇
「というと？」

阪神虎之介
「スコアボードを見てください」

そう言ってみんな一斉にスコアボードを見る。

すると

しら
「あ！」

紀葉
「あれ？」

阪神虎之介
「気づいてるかもしれませんが、ヒット数桜ヶ丘7本に対してウチらは4本です」

ｉｋｋｉ
「効率よく点が穫れてる証拠じゃん」

阪神虎之介
「逆に見れば、押されてます」

ｉｋｋｉ
「まぁそうだね…」

阪神虎之介
「そこでこの回から2ストライクまではボールを見送ってください」

しら
「何でですか？」

阪神虎之介
「ティータイム先発の平沢唯…彼女はもう体力限界まで来ています」

紀葉
「スタミナ無いんですね」

阪神虎之介
「そこで一気に削ります」

千歳涼介
「分かりました」

アナウンス
「3回裏、小説ウィテングスの攻撃は2番、レフトォ、鷹峯琇」

「鷹峯さぁん！」

「セーフティーセーフティー！」

鷹峯
「よしだったら」

鷹峯さんはセーフティーの構えを見せる。

田井中律
（セーフティー？）

平沢唯
（セーフティー！？）

【ピシュ！】

投球と同時に平沢唯は走る！

しかしバットを引く。

敷田主審
「ボール！」

田井中律
「何だよ…」

続く二球目

鷹峯
（バント…）

平沢唯
（また？）

また投球と同時に走る。

しかし見送る

敷田主審
「ストライク！」

田井中律
（参ったな…揺さぶってる…）

田井中律はそう考えると平沢唯を見る。

彼女は明らかに肩で息をしている。

田井中律
（不味いな…）

田井中律はど真ん中に投げるように指示。

平沢唯
（わかった）

【ピシュ！】

また見送る。

敷田主審
「ストライクツゥ」

阪神虎之介
「いいぞいいぞ」

田井中律
（次は高めの直球）

【ピシュ！】

【カキィ…】

敷田主審
「ファウルボール」

ワザと鷹峯さんは振り遅れる。

確実に粘っている証拠だ。

平沢唯
「ハァハァ…」

田井中律
「唯、頑張れ！」

平沢唯
「う、うんりっちゃん」

平沢憂

「お姉ちゃん…」

ベンチでは

山中さわ子
「曽我部さん肩作って」

曽我部恵
『分かりました』

ブルペンに電話する。

結局、鷹峯さんには四球で出塁。

アナウンス
「三番、サード、紀葉」

紀葉さんはネクストバッターズサークルでバットを回しながら打席に立つ。

2ストライク戦法は変わらない

紀葉
（だけどね）

【ピシュ！】

紀葉

「上手い所に来たら打つ！」

【カキィン！】

中野梓
「わぁ！」
ショートを超えた。

レフト前ヒット

ウルトラマンゼロ
「さぁ、今度は打たせてくれよ…」

アナウンス
「四番、ショート、ウルトラマンゼロ」

「ワァァァ！」

スタンドが湧く

「頼んだ！」

ウルトラマンゼロ
「シュワッ！」

田井中律
（どうしよう…）

平沢唯
（りっちゃん～）

平沢憂
「タイム、お願いします」

小寺墨審
「タイム」

平沢憂はマウンドに行く

平沢憂
「お姉ちゃん、頑張って」

平沢唯
「う～い～」

平沢憂がサードに戻り、試合再開

平沢唯
「そ～れ」

【ピシュ！】

高めのボール

田井中律
「マズい！」

【カキィン！】

平沢唯

「あ！」

打球はレフトとセンター…

奥田直
「あ…、あ…、あ…」

真鍋和
「奥田さん！任せて！」

奥田直
「はぃい！」

しかし打球は

真鍋和
（これホームラン？）

ホームランかと思ったら

【ガシャン！】

風に戻されてもフェンス激突の当たり

バウンドボールを捕った真鍋和は中継の中野梓に投げる。

真鍋和
「ショート！」

しかしその間に鷹峯さんはホームイン

紀葉さんも三塁回る。

中野梓がボールをキャッチ！

田井中律
「バックホーム！」

中野梓
「はい！」

ボールをホームに送球。

【ズザザザザ】

田井中律
「わぁ！」

クロスプレーと思いきや、田井中律はショートバウンドした送球を取り損ないセーフ。

その間にウルトラマンゼロさんがホーム突入。

平沢唯
「りっちゃん！」

てっきり三塁に止まったと思った田井中律はビックリするがホームにボールを投げる。

【パシ！】

ウルトラマンゼロ
「シュワ！」

【ズザザザザザ】

平沢唯
「キャア！」

平沢唯は転倒し…ボールを落とした。

敷田主審
「セーフ」

阪神虎之介
「よっしゃあ！」

ｉｋｋｉ
「やった！」

ウルトラマンゼロさんのランニングホームラン！

小説７－２桜ヶ丘

そして、山中さわ子監督がマウンドに向かい

山中さわ子
「ピッチャー、曽我部恵」
敷田主審
「分かりました」

平沢唯、２回０／３、７失点で降板

田井中律
「大丈夫、敗戦投手にはしない」

平沢唯
「うん、みんなごめんね」

中野梓
「気にしないでください」

アナウンス
「桜ヶ丘ティータイム、ピッチャーの交代を致します。平沢唯に変わりまして、曽我部恵、ティータイムのピッチャー、曽我部恵」

レフト後方からリリーフカーが出てきた。

そしてそれに乗って曽我部恵が出てくる。

曽我部恵
「平沢さん後は任せて」

平沢唯
「お願いします」

ライトスタンドでは見計らったように阪神応援団による相手投手ＫＯ時の曲「螢の光」が歌われ始めた。

「燃えろ！阪神タイガース！！」

そして静かな卒業ソングから一気に六甲おろしを歌い始める。

山中さわ子
「くぅ…」

阪神虎之介
「空気が変わった！」

規定の投球練習が終わり

アナウンス
「バッターは五番、ファースト、しら」

しら
「よっし！」

曽我部恵
（田井中さん行きますか）

田井中律
（はい）

【ピシュ！】

しら
「おっ」

敷田主審
「ストライク！」

しら
（ボールが落ちた…フォークか？）

曽我部恵
（お次は…）

【ピシュ！】

しら
（お？）

敷田主審
「ボール」

しら
（何だ今の…スライダー？）

阪神虎之介
（変化球が多そうなこって）

曽我部恵
（そして）

【ピシュ！】

しら
（ん？）

敷田主審

「ボールツゥ」

阪神虎之介
（今の…って…）

ｉｋｋｉ
（まさか…）

しら
（ナックル？）

曽我部恵
（フフフ…）

田井中律
（捕るのが大変）

しら
「タイム！」

しらさんは打席から一回離れる。

ネクストバッターズサークルまで戻ってセブンの独り言さんから滑り止めのスプレーを貰う。

セブンの独り言
「どうぞ」

しら
「ありがとう」

セブンの独り言
「ナックルですね、あれ」

しら
「やっぱり」

セブンの独り言
「そうすると厄介ですね」

しら
「だな」

しらさんは滑り止めのスプレーを使うと打席に戻った。

敷田主審
「プレイ！」

田井中律
（ナックル多用はあまりしたくない）

曽我部恵
（分かってるわ）

【ピシュ！】

しら
（ストレート）

【カキィン！】

平沢憂
「やっ！」

サードへ抜ける当たりだったが、平沢憂が上手く飛びついて送球。

【パシ！】

村田塁審
「アウト」

アナウンス
「六番、キャッチャー、セブンの独り言」

曽我部恵
（こうゆうバッターこそ）

【ピシュ！】

曽我部恵
（ナックルが使えるのよね）

【カキィ…】

セブンの独り言
「畜生！」

打球はピッチャーの前を行きピッチャーゴロ

村田塁審

「アウト」

アナウンス
「七番、センター、千歳涼介」

千歳涼介
「ふぅ～」

打席の中で千歳涼介さんは深呼吸。

【ピシュ！】

【カキィン！】

阪神虎之介
「ナイスバッティング！」

千歳涼介
「しゃあ！」

ライト前ヒットで出塁。

ｓｃａｒｌｅｔ
「よーし俺も！」

アナウンス
「八番、セカンド、ｓｃａｒｌｅｔ」

【カキィ…】

中野梓
「はい！」

村田塁審
「アウト」

ｓｃａｒｌｅｔ
「ダメでした」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】3回裏（後書き）

【3回裏終了】

桜ヶ丘　０１１　―２

小説　　４０３　―７

【桜ヶ丘】

平沢唯ー曽我部恵／田井中律

【小説】

ｉｋｋｉ／セブンの独り言

？鷹峯琇

粘って四球

？紀葉

上手く引っ張りレフト前ヒット

？ウルトラマンゼロ

フェンス激突のランニングホームラン

？しら

変わった曽我部恵の変化球に踊されたがサード強襲のヒット性のあたりを放つ、サードゴロ

?セブンの独り言

ピッチャーゴロ

?千歳涼介

ライト前に上手く流す

?ｓｃａｒｌｅｔ

平凡なショートゴロ

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】4回表

3回裏終了時、記者席では

記者？
「3回で7－2か」

記者？
「やっぱり打線に迫力のあるからな」

記者？
「それにしてもピッキーの奴出て来ないな」

記者？
「打撃練習には出てきてましたけど、ベンチを眺めてもいませんね」

記者？
「やっぱり代打の練習でもしてるのかなぁ？」

記者？
「一番ピッキーだと俺は思ったんだが」

ーライトスタンドー

観客？
「しらさぁん！紀葉さぁん！ウルトラマンゼロさぁん最高！」

観客？
「けどこの横断幕どうする？」

この観客は試合開始から「獣王無敗！」や「燃やせ野球魂！」等の横断幕を掲げているが、もう一枚「俺の誇りピッキー！」という横断幕がある。

要はこの小説に参加した作者さんの1人、ピッキーさんのファンだ。

観客？
「出てこないからかぁ～」

観客？
「ベンチ入りメンバーにはしっかり名前が出たんだけど」

観客？
「早よ出てきてくれぇ」

ー一塁ベンチー

ピッキー
「3回終わって7－2ですか」

阪神虎之介
「けどあちらさんも当たっている」

ピッキー
「代打の用意はいつでもいいですよ」

阪神虎之介
「よろしくお願いします」

アナウンス
「４回表、桜ヶ丘ティータイムの攻撃は、六番、レフト、真鍋和」

ｉｋｋｉ
「５点差だ、のびのび行こう」

セブンの独り言
「そうですね」

敷田主審
「プレイ！」

【ピシュ！】

【カキィン！】

セブンの独り言
「あ！」

ｉｋｋｉ
「く…」

甘く入った球を痛打されセンター前ヒット

アナウンス
「七番、セカンド、鈴木純」

阪神虎之介
「しかしなぁ…」

鈴木純
「わぁ…」

阪神虎之介
「こいつの時だけ応援が凄い」

今回のこの試合に関わらず、その選手の応援歌はその元となった選手の所属球団の応援団がやる事になっている。

鈴木純の場合、元にしたのは現広島東洋カープの石井琢朗である。

石井琢朗の場合、前所属球団が横浜ベイスターズである。

そしてなんと使われている応援歌はそのままである。

だから一緒にやることができるし、ファンも知っているため、普段の倍になる。

無死一塁

ｉｋｋｉ
（どうします？）

セブンの独り言
（真鍋は足もある）

ｉｋｋｉ
（しかし5点差ですよ）

セブンの独り言

（じゃ律儀に送りバントか？）

阪神虎之介
（送りバントは無い、山中監督は強行してくる）

山中さわ子
（まずは空気を変える事が大事）

【ピシュ！】

【カキィン！】

ウルトラマンゼロ
「シュワッ！」

【パシ！】

二出川塁審
「アウト」

ショートライナー

アナウンス
「八番、センター、奥田直」

奥田直
「ハワワ…」

真鍋和
（ここは…）

【ピシュ！】

真鍋和
（盗塁！）

【パシ！】

セブンの独り言
「マジか！？」

【ピシュ！】

【パシ！】

二出川塁審
「セーフ」

山中さわ子
（ありがとう真鍋さん）

そして

【コン…】

紀葉
「送りバントかぁ…」

ｉｋｋｉ
「ファースト」

紀葉
「はい」

村田塁審
「アウト」

二死三塁

アナウンス
「九番、ピッチャー、曽我部恵」

ｉｋｋｉ
（ここで断ち切りましょう）

セブンの独り言
（そうだな）

【ピシュ！】

【カキィ】

敷田主審
「ファール」

セブンの独り言
（当てにいってる）

ｉｋｋｉ
（だな）

【ピシュ！】

【カキィン】

敷田主審
「ファール」

ｉｋｋｉ
「二球続けてファールか」

セブンの独り言
（だったらもう）

【ピシュ！】

【カキィン！】

セブンの独り言
「転がすしか無い」

打球は二塁ｓｃａｒｌｅｔさんへ

ｓｃａｒｌｅｔ
「あらよっと」

【パシ！】

村田塁審
「アウト」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】４回表（後書き）

【４回表終了】

桜ヶ丘　０１１　０　―２

小説　　４０３　―７

?真鍋和

センター前ヒット

?鈴木純

ショートライナー

?奥田直

送りバント

?曽我部恵

セカンドゴロ

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】4回裏

アナウンス
「4回裏小説ウィテングスの攻撃は九番、ピッチャー、ｉｋｋｉ」

曽我部恵
「それじゃ行きますか」

【ピシュ！】

【バシィ！】

敷田主審
「ストライク！」

田井中律
（また振る気無し）

曽我部恵
（振らない？）

【ピシュ！】

【バシィ！】

敷田主審
「ストライクツゥ！」

田井中律

（振らない…）

ｉｋｋｉ

（体力温存だ…、振るわけがない）

【ピシュ！】

【バシィ！】

敷田主審

「ストライクバッターアウトゥ！」

卍！

アナウンス

「一番、ライト、双樹槇」

阪神虎之介

「打順は早くも3巡目か」

双樹槇

（ナックルポーラーか）

田井中律

（初球これで）

【ピシュ！】

双樹槇

「おっ」

敷田主審
「ストライク」

双樹槇
（初球ナックル…）

田井中律
（次は…）

【ピシュ！】

双樹槇
（え？）

【バシィ！】

１３０ｋｍ台の直球

敷田主審
「ストライクツゥ！」

双樹槇
（クッソ）

田井中律
（３球目は…）

【ピシュ！】

双樹槇
（ナックル！！）

【カキィ…】

敷田主審
「ファール」

双樹槇
（打ちづらい…）

田井中律
（捕りづらい…、次は）

【ピシュ！】

双樹槇
（直球？）

双樹槇さんは直球と思い振りに行くが

【ストーン】

双樹槇
「な！？フォーク？」

【ブゥン！】

敷田主審
「スットライクバッターアウトゥ！」

卍！

双樹槇
「畜生」

アナウンス
「二番、レフト、鷹峯珱」

鷹峯
「厄介だな」

田井中律
（それでは）

【ピシュ！】

鷹峯
（お？）

【カキィン！】

田井中律
（しまった！）

小寺塁審
「ファール」

鷹峯
「くっ…」

田井中律
（危ない危ない、高めにストレートが来たからヒヤッとしたよ）

曽我部恵
「ふぅ～」

田井中律
（それでは…）

【ピシュ！】

鷹峯
（好球だぁ！）

【カキィ！】

打球はショート中野梓を…

【バシィ！】

二出川塁審
「アウトゥ！」

中野梓のファインプレー

鷹峯
「はぁ…」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】４回裏（後書き）

【４回裏終了】

桜ヶ丘　０１１　０　―２

小説　　４０３　０　―７

【桜ヶ丘】

平沢唯－曽我部恵／田井中律

【小説】

ｉｋｋｉ／セブンの独り言

？ｉｋｋｉ

今後の体力の事もあり三振

？双樹槇

三振

？鷹峯琇

ショート中野梓のファインプレーがありショートライナー

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】5回表（前書き）

※この話以降作者の独断で選手交代が行われたり、選手不足の為、内野手や外野手でも投手や捕手をやるかもしれません。

ご了承ください。

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】5回表

5回表開始前にグラウンドキーパーの方々がグラウンドの整備を行う。

今日は5回裏終了時に花火をやる予定だったが…

アナウンス
「本日は強風の影響により5回裏終了時の花火を中止にさせて頂きます」

阪神虎之介
「仕方ないな」

ピッキー
「12Mですものね」

しら
「見たかったな…」

アナウンス
「お待たせしました。5回表の桜ヶ丘ティータイムの攻撃は一番、ショート、中野梓」

中野梓
「5点差です！打ってやるです！」

セブンの独り言
（初球内角に）

ｉｋｋｉ
（はい）

【ピシュ！】

中野梓
「ヒャア！」

敷田主審
「ストライク！」

セブンの独り言
（続けて外角に）

【ピシュ！】

敷田主審
「ストライクツゥ！」

セブンの独り言
（よし最後に…低めのストライクからボールになるシンカー）

ｉｋｋｉ
（はい）

【ピシュ！】

中野梓
（入ってる！）

【ブン！】

中野梓
「あ…」

敷田主審
「スットライクバッターアウトゥ！」

卍！

中野梓
「うぅ…」

ｉｋｋｉ
（斬り込み隊長の梓を三振！）

アナウンス
「二番、ライト、秋山澪」

秋山澪
「打たなきゃ打たなきゃ打たなきゃ打たなきゃ」

平沢唯
「澪ちゃんリラックス！」

田井中律
「澪！怯えるな！」

秋山澪

「そうだ…、深呼吸…深呼吸…」スゥ～ハァ～

セブンの独り言
（ビビってるビビってる～）

ｉｋｋｉ
（下、上？）

セブンの独り言
（上でお願いします）

ｉｋｋｉ
（はい）

【ピシュ！】

秋山澪
「ヒィ！」

【カキィン！】

平沢唯
「あ！」

田井中律
「何やってんだ？」

セブンの独り言
「おっと」

【パス！】

敷田主審
「アウトゥ」

秋山澪
「ヒィイ…ライト守っている時の応援が頭にこびり付いて…」

アナウンス
「三番、サード、平沢憂」

平沢憂
「お姉ちゃんを敗戦投手になんかしない！」

セブンの独り言
（じゃあ…）

【ピシュ！】

【カキィン！】

紀葉
「あらよっと」

【パシ！】

小寺墨審
「アウト」

ｉｋｋｉ

「ざまぁw」

セブンの独り言
「よっしゃ！」

平沢憂
「お姉ちゃんゴメン」

阪神虎之介
「あれ見送ればボールじゃない？」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】5回表（後書き）

【5回表終了】

桜ヶ丘　０１１　００　―２

小説　　４０３　０　―７

【桜ヶ丘】

平沢唯ー曽我部恵／田井中律

【小説】

ｉｋｋｉ／セブンの独り言

?中野梓

三振

?秋山澪

キャッチャー小フライ

?平沢憂

サードライナー

【途中参加者募集中】

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】5回裏（前書き）

ＳＨ…福岡ソフトバンクホークス

ＣＭ…千葉ロッテマリーンズ

ＴＨ…阪神タイガース

ＹＳ…東京ヤクルトスワローズ

ＨＣ…広島東洋カープ

ＣＤ…中日ドラゴンズ

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】5回裏

～5回裏開始前のライトスタンド～

応援団？（ＳＨ）
「次の紀葉選手の応援歌を変えませんか？」

応援団？（ＳＨ）
「そうだな、『内川』はゴロ悪いし」

応援団？（ＳＨ）
「じゃあ誰にします？」

応援団？（ＣＭ）
「ウチの井口は？」

応援団？（ＳＨ）
「いいけどさ、男じゃないだろ？」

応援団？（ＳＨ）
「松田選手のはどうです？」

応援団？（ＳＨ）
「あ！いいんじゃね？」

応援団？（ＳＨ）
「じゃ紀葉選手のは松田選手に変更な」

応援団？（ＳＨ）

「え～、皆さん！紀葉選手の応援歌ですけど！誠に勝手ながら！松田選手のに変えたいと思います！知らない方がいらっしゃいましたら、こちらの方に歌詞カードがありますので…」

アナウンス
「5回裏、小説ウィテングスの攻撃は、3番、サード、紀葉」

紀葉
「ナックルと戦えるのは嬉しい！」

紀葉さんはあることに気づいた。

紀葉
「あれ？曲違くない？」

阪神虎之介
「なんか変わったね」

勿論選手達は知る由もない。

紀葉
「まぁいっか」

阪神虎之介
「♪～♪～♪～、あっこれ松田かぁ」

曽我部恵
（初球外角に直球）

【ピシュ！】

紀葉
「ボール」

敷田主審
「ボール」

曽我部恵
（外に逸れたわね）

田井中律
（次は入れてください）

紀葉
（次は中に入れてくる）

【ピシュ！】

紀葉
（来た！でもボール）

【バシィ！】

敷田主審
「ストライク」

紀葉
「え～」

田井中律

（さっきのと同じで）

【ピシュ！】

紀葉
（これはボール）

【バシィ！】

敷田主審
「ストライクツゥ」

紀葉
（えぇ～）

阪神虎之介
（際どいな）

田井中律
（ラストはこれで！）

曽我部恵
（ＯＫ！）

【ピシュ！】

紀葉
（真ん中低め…ストライク！）

紀葉さんは振りにいくが…

ボールが不自然な動きをする

紀葉
「くっ…」

【ブゥン！】

敷田主審
「スットライクバッターアウトゥ！」

紀葉
「ちくしょ～」

アナウンス
「四番、ショート、ウルトラマンゼロ」

「ワァァァァ！！」

ウルトラマンゼロ
「ナックルかぁ…」

田井中律
（今度は真ん中から落としてください）

【ピシュ！】

ウルトラマンゼロ
（落ちる…）

【バシィ！】

敷田主審
「ストライク」

田井中律
（じっくり攻めて内角に落としてください）

【ピシュ！】

ウルトラマンゼロ
（見送る…）

【バシィ！】

敷田主審
「ストライクツゥ」

B
S ●●
O ●

ウルトラマンゼロ
「追い込まれた…」

田井中律
（一球見送りますか？）

曽我部恵
（そうするわ）

【ピシュ！】

【ダスッ！】

田井中律
「わっ！」

ボールはバウンドしてなんとか止める田井中律

田井中律
（力んでる力んでる）

曽我部恵
（ごめんなさい）

田井中律
（チェンジアップお願いします）

【ピシュ！】

ウルトラマンゼロ
（くっ、チェンジアップ…）

【カキィ】

中野梓
「はい！」

ショート中野梓一塁送球。

村田塁審
「アウト」

アナウンス
「五番、ファースト、しら」

しら
「ナックルかぁ…」

田井中律
（低めに直球）

【ピシュ！】

【バシィ！】

敷田主審
「ストライク」

しら
（初球は見送りか）

田井中律
（次は高めに、但しボールで）

【ピシュ！】

しら
（ボール…）

【バシィ！】

敷田主審
「ボール」

しら
（次は…ナックルかな？）

田井中律
（ナックルを一回見せてください）

【ピシュ！】

しら
（これは直球かな？チェンジアップ？）

するとボールが揺れる

しら
（！！？）

【バシィ！】

敷田主審
「ストライクツゥ！」

しら
（あれがナックル…）

田井中律
（次は直球！）

【ピシュ！】

しら
「あ！」

【カキィン！】

ボールは後ろに

アナウンス
「ファールボールに気をつけてください！」

ファールボールがスタンドに

曽我部恵
「当てた…」

田井中律
（決めはナックルで）

曽我部恵
「ＯＫ！」

【ピシュ！】

しら
（ゲ…）

【バシ！】

敷田主審
「スットライクバッターアウトゥ！」

しら
「くぅ…」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】5回裏（後書き）

【5回裏終了】

桜ヶ丘　０１１　００　―２

小説　　４０３　００　―７

【桜ヶ丘】

平沢唯－曽我部恵／田井中律

【小説】

ｉｋｋｉ／セブンの独り言

?紀葉

三振

?ウルトラマンゼロ

ショートゴロ

?しら

三振

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】6回表（前書き）

ちょっとこれから省略もします。

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】6回表

「絶対勝つぞティタイム！絶対勝つぞティタイム！絶対勝つぞティタイム！」

【ダダン】「ｉｋｋｉ！」【ダダン】「ｉｋｋｉ！」【ダダン】「ｉｋｋｉ！」

両チームの応援合戦が凄い

アナウンス
「6回表、桜ヶ丘ティータイムの攻撃は、四番、田井中律」

セブンの独り言
（打てない主砲）

ｉｋｋｉ
（打てない四番打者）

【田井中律の今日の成績】
（二併）（左犠）

阪神虎之介
「四番打者で安牌なの？」

【ピシュ！】

【バン！】

敷田主審
「ストライク」

今のは低めの直球

セブンの独り言
（振らない？）

田井中律
（打たなきゃなぁ…）

【ピシュ！】

田井中律
（真ん中高め！）

【ガキィ…】

ボールは後ろへ

敷田主審
「ファール」

田井中律
（追い込まれたぁ！）

セブンの独り言
（よぉし！じゃあ…）

【ピシュ！】

田井中律
（際どいが…ボール！）

【パシ！】

田井中律
「……」

敷田主審
「スットライクバッターアウトゥ！」

田井中律
「えぇ！？」

山中さわ子
「ちょっと待って！」

山中監督がベンチから飛び出す。

山中さわ子
「今のどこがストライクなのよ！？」

敷田主審
「ベースに被ってる！ストライクだ！」

山中さわ子
「くっ…」

山中監督が退く

田井中律
「はぁ…」

平沢唯
「りっちゃん…」

アナウンス
「五番、ファースト、琴吹紬」

「むーぎちゃーん！」【ダンダンダン】「むーぎちゃーん！」

セブンの独り言
（下手したら一番パワーがあるかも…）

ｉｋｋｉ
（一球様子見ますか？）

セブンの独り言
（そうだな）

【ピシュ！】

高めにウエイトボールをする。

【カキィン！】

セブンの独り言
「えぇ！？」

打球はレフトへ

鷹峯
「風で右にスライスしてる！」

鷹峯琹さんはセンターの方に走る。

千歳涼介
「鷹峯さん！無茶しないでください！」

鷹峯
「オラァ！」

ヘッドスライティングする鷹峯さんだが…

鷹峯
「捕れない！！」

打球はセンター千歳涼介さんがキャッチする。

琴吹紬
「二塁は行けないわね」

アナウンス
「六番、レフト、真鍋和」

セブンの独り言
（やっぱり広角に打ち分けられるから怖い）

ｉｋｋｉ

（あの高めを打つなんて…）

セブンの独り言
（それじゃシンカーでやってみる？）

ｉｋｋｉ
（シンカー…）

【ピシュ！】

真鍋和
（…！シンカー…）

【カキィン！】

セブンの独り言
「狙い撃ち！？」

打球はライトへ

双樹槇
「流し打ちされたか…」

続く七番鈴木純に四球を出してしまい、一死満塁のピンチ

その時、山中監督が出てくる。

山中さわ子
「バッター、奥田に代わり、斉藤！」
敷田主審

「はい」

敷田主審はそう言うとダクアウトに連絡する。

アナウンス
「桜ヶ丘ティータイム、バッターの交代を行います。バッター、奥田直に代わりまして、斉藤薫、ティータイムのバッター、斉藤薫」

斉藤薫
「奥田さんお疲れ」

奥田直
「はい」

阪神虎之介
「動いたな…」

セブンの独り言
（パスボールの危険があるからシンカーは厳禁）

その時、三塁ランナーの琴吹紬が斉藤薫を威嚇？

琴吹紬
【ユラ～】

斉藤薫
「ヒィ！」

多分「打たないと殺す」だと思う。

【ピシュ！】

斉藤薫
「ヒィィ！」

【カキィン】

ｉｋｋｉ
「え？」

千歳涼介
「あれ？」

阪神虎之介
「はい？」

バックスクリーン右横に…

「ワァァァァァァァァ！！！！」

ｉｋｋｉ
「マジかぁ…」

斉藤薫
「ウソォ！」

信じられない顔でホームベースを回る斉藤薫。

元気よくハイタッチ

マウンドでは内野陣と阪神虎之介が集まる。

阪神虎之介
「どうします？ｉｋｋｉさん」

ｉｋｋｉ
「俺以外に投手っているの？」

阪神虎之介
「私とレフトを守っている双樹槇さんが投手です」

ｉｋｋｉ
「……ここは引きます」

阪神虎之介
「わかりました」

そう言って阪神虎之介はホームベースに行き

阪神虎之介
「ピッチャーのｉｋｋｉさんに代わり、レフトの双樹槇さんが入ります。空いたレフトにジョー・ギブケンが入ります」

敷田主審
「わかりました」

しら
「ｉｋｋｉさん大丈夫ですよ！勝ち投手の権利はありますから」

紀葉
「しっかり守りますから！安心してください！」

ｉｋｋｉ
「ありがとうございます。お願いします。」

アナウンス
「小説ウィテングス、ピッチャーの交代をお知らせ致します。ピッチャーｉｋｋｉに代わりまして双樹槇、ウィテングスのピッチャー双樹槇、小説ウィテングス、守備の交代を行います。レフトの双樹槇がピッチャー、ピッチャーのｉｋｋｉに代わりましてジョー・ギブケンがレフトに入ります。」

双樹槇
「セブンさんよろしくお願いします」

セブンの独り言
「双樹槇さんはどっちですか？」

双樹槇
「両投両打です」

セブンの独り言
「それは凄い！」

その後、なんとか後続を断った双樹槇さんであった。

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】6回表（後書き）

【6回表終了】

桜ヶ丘　011　004　―6

小説　　403　00　　―7

【桜ヶ丘】

平沢唯－曽我部恵／田井中律

【小説】

ｉｋｋｉ－双樹槇／セブンの独り言

【本塁打】

ウルトラマンゼロ1号？

斉藤薫1号？

？田井中律

三振

？琴吹紬

ヒット

？真鍋和

ヒット

?:鈴木純

四球

?:奥田直一斉藤薫（代打）

代打満塁本塁打

?:曽我部恵

見逃し三振

?:中野梓

ピッチャーゴロ

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】6回裏

アナウンス
「6回裏、小説ウィテングスの攻撃は、六番、キャッチャー、セブンの独り言に代わりまして、ピッキー」

「エエエエ!!」

「オオオオオ!!」

観客？
「嘘だろ!?早すぎるだろ!?」

観客？
「ピッキーさぁぁぁん!!」

阪神虎之介
「お願いします!!」

ｉｋｋｉ
「あの～、阪神虎之介さん?」

阪神虎之介
「はい」

ｉｋｋｉ
「キャッチャーどうするんですか?キャッチャーなのセブンの独り言さんだけですよ」

阪神虎之介
「……あ」

ピッキー
（しかしあのアホ、キャッチャーどうする気だよ…いねーぞ）

【ピシュ！】

ピッキー
（内角…威嚇したつもりかぁ！！）

【カキィン！】

代わったセンター、斉藤薫の所へ

ｉｋｋｉ
「ナイスバッティング！あれ？阪神虎之介さん？」

阪神虎之介はホームベースの所へ行く。

その手にはバットが

ｉｋｋｉ
「まさか…」

阪神虎之介
「代打『オレ』」

アナウンス
「小説ウィテングス、バッターの交代を行います。バッター千歳涼

介に代わりまして、阪神虎之介」

応援団？（ＴＨ）
「よっしゃ来たぞ～！！」

応援団？（ＴＨ）
「やっと吹ける」

阪神虎之介
「よし！」

曽我部恵
（ちょろそう）

田井中律
（初球ナックルでお願いします）

曽我部恵
（はいは～い）

【ピシュ！】

ピッキー
（盗めた）

田井中律
（ゲ…盗塁！）

【バシィ！】

田井中律
「く…」

ランナー二塁

田井中律
（だったら）

【ピシュ！】

【ダッ！】

田井中律
（三盗も！）

【カキィン！】

田井中律
「あ！」

打球は1、2塁間を抜ける！

ピッキー
「よっしゃ！」

秋山澪が捕ってバックホームするが

足の速いピッキーさんは悠々とホームイン

阪神虎之介

（よっしゃなんとか打てた）

そして

阪神虎之介
「タイム！」

アナウンス
「小説ウィテングス、バッターの交代を致します。八番ｓｃａｒｌｅｔに代わりまして、ユーリ、ウィテングスのバッター、ユーリ」

ユーリ
「やっと打席に立てるぜ！」

【カキィン！】

曽我部恵
「あぁ…」

センター前ヒット

続くジョー・ギブケンさんが倒れて一死１、２塁

アナウンス
「一番、ピッチャー、双樹槇」

双樹槇
「一番でピッチャー…」

曽我部恵
「一番でピッチャー…」

田井中律
（初球ナックルで）

曽我部恵
（はい）

【ピシュ！】

【ユラ～】

双樹槇
「くっ…」

【カキィ！】

ショートの中野梓が捕り

中野梓
「セカァン！」

【バシィ！】

二出川墨審
「アウト！」

鈴木純
「はい！」

一塁送球

【バシィ！】

村田塁審
「アウト」

曽我部恵
「ふぅ～」

阪神虎之介
「キャッチャーどうしよ…」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】６回裏（後書き）

【６回裏終了】

桜ヶ丘　０１１　００４　―６

小説　　４０３　００１　―８

【現在のスタメン】

?:双樹槇　投
?:鷹峯琇　（左）
?:紀葉　（三）
?:ウルトラマンゼロ　（遊）
?:しら　（一）
?:ピッキー　打
?:阪神虎之介　打
?:ユーリ　打
?:ジョー・ギブケン　右

※【お詫び】

前話で守備交代の時、レフトとライトを間違いました。この場を借りてお詫びします。ｍ（＿＿）ｍ

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】7回表（前書き）

明けましておめでとうございます！

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】7回表

アナウンス
「小説ウィテングスの守備の訂正を致します。先ほど代わりましたｉｋｋｉに代わりましてライトの双樹槇がピッチャーに入ります。代わりましてジョー・ギブケンがライト、ウィテングスのピッチャー、双樹槇、ウィテングスのライトはジョー・ギブケン」

阪神虎之介
「ごめんなさい」

アナウンス
「小説ウィテングス、選手の交代致します。阪神虎之介がキャッチャー、ピッキーがセンター、ユーリがセカンドに入ります。ウィテングスのキャッチャー、阪神虎之介。ウィテングスのセンター、ピッキー。ウィテングスのセカンド、ユーリ。以上になります」

阪神虎之介
「キャッチャー俺しかおらんね」

ピッキー
「別に俺、自分の作品でキャッチャーやってますけど」

阪神虎之介
「でもピッキーさんは外野手でやりたいとおっしゃってますから自分がやりますよ」

ｉｋｋｉ
「監督でキャッチャーってまるで野村克也や古田敦也だな」

阪神虎之介
「そうだな…」

双樹槇
「どうします？」

阪神虎之介
「双樹槇さんは右がオーバースローで左がスリークォータですか」

双樹槇
「そうですね…」

阪神虎之介
「とりあえず左打者には左、右打者には右でお願いします」

双樹槇
「はい」

赤い風船の回収作業（7回表なので桜ヶ丘ティータイムのラッキー7でした。なので広島東洋カープの赤い風船が飛び交った。尚且つ今日は強風でバックホーム方面に吹いているので…）

紀葉
「三塁まで風船来た…」

アナウンス
「7回表、桜ヶ丘ティータイムの攻撃は、二番、ライト、秋山澪」

双樹槇

（阪神虎之介ってどんなリードなんだ？）

阪神虎之介
（ｉｋｋｉさんと違い、双樹槇さんは１４０の速球があるから）

【ピシュ！】

秋山澪
「ひゃあ！」

【バシィ！】

内角ギリギリに威嚇

敷田主審
「ボール」

阪神虎之介
（お次は…）

【ピシュ！】

外角高めに直球

【バシィ！】

敷田主審
「ストライク！」

田井中律

「澪！しっかり見て！！」

秋山澪
「うん…」

阪神虎之介
（じゃあシメは！）

【ピシュ！】

秋山澪
「あ…」

【カキィン！】

しら
「当てただけじゃん」

村田塁審
「アウト！」

アナウンス
「三番、サード平沢憂」

阪神虎之介
（チームじゃ一番の巧打者だけに…）

双樹槇
（どうします？）

阪神虎之介
（風は左から右に変わっているから）

【ピシュ！】

【カキィン！】

レフトへ高々と上がるフライだが

鷹峯
「スタンドインはしないな…」

ピッキー
「打球が戻ってきてる…」

そして

鷹峯
「ハイ」

【パス】

小寺墨審
「アウト」

田井中律
「スゥ～ハァ～」

アナウンス
「四番、キャッチャー、田井中律」

打てない四番打者の４打席目

阪神虎之介
（双樹槇さんの変化球はスライダー、カーブ、フォークにチェンジアップがある）

【ピシュ！】

【ピク】

【バシィ！】

敷田主審
「ストライク」

田井中律
（初球フォーク…）

阪神虎之介
（これで次は）

【ピシュ！】

田井中律
（カーブ…）

【バシ！】

敷田主審

「ストライクツゥ！」

田井中律
（となると次は…チェンジアップか？速球を見せ球にして）

阪神虎之介
（内角ギリギリに直球、ボールになってもいい）

双樹槇
（わかりました）

【ピシュ！】

田井中律
「あ！」

【バシ！】

敷田主審
「ストライクバッターアウトゥ！」

卍！

阪神虎之介
「次はウチのラッキー7や！！」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】7回表（後書き）

【7回表終了】

桜ヶ丘　０１１　００４　０　―６

小説　　４０３　００１　　―８

【桜ヶ丘】

平沢唯－曽我部恵／田井中律

【小説】

ｉｋｋｉ－双樹槇／セブンの独り言－阪神虎之介

アナウンス

「7回裏、小説ウィテングス、ラッキー7の攻撃です」

球場に千葉ロッテマリーンズの応援歌「ＷｅＬｏｖｅＭａｒｉｎｅｓ」が流れる。

「3…2…1…発射！！」

【ピシュ～】

阪神虎之介

「ジェット風船はいいね」

「ファイテング！」「ファイテング！」

「絶対勝つぞ！ウィテングス！絶対勝つぞ！ウィテングス！絶対勝つぞ！ウィテングス！」

※7回裏からはチャンステーマメドレーです。

順番は

・中日の「打って打って打ちまくれ！」のやつ（曲名知らないごめんなさい）

・狙い撃ち（中日）

・ビクトリー（中日）

・夏祭り（ヤクルト）

・ルパン三世（ヤクルト）

・チャンス襲来（阪神）

・チャンスわっしょい（阪神）

・ワッショイ（ソフトバンク）

・鷹の道（ソフトバンク）

・チャンステーマ？（千葉ロッテ）

・チャンステーマ？（千葉ロッテ）

・チャンステーマ？（千葉ロッテ）

・スキンヘッドランニング（千葉ロッテ）

阪神虎之介

「無駄に長い…」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】7回裏（前書き）

リーグ戦途中経過

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】（ＱＶＣマリンフィールド）

（7回表終了）
小　8－6　桜

【小説】
ｉｋｋｉ－双樹槇

【桜ヶ丘】
平沢唯－曽我部恵

【学園都市ゴールデンガールズ対マリオマリナーズ】（明治神宮野球場）

（6回裏終了）
学　1－4　マ

【学園都市】
佐天－絹旗

【マリオ】
ドンキー

【インデックス対亀有ポリスマンズ】（横浜スタジアム）

（７回裏終了）
イ　０ー７　亀

【インデックス】
上条ー建宮ー五和

【亀有】
両津

【ポケットモンスターズ対ジャイアンズ】（わかさスタジアム京都）

（６回表途中）
ポ　０ー１７　ジ

【ポケモン】
サトシーレッドーダイヤーグリーンーイエロー

【ジャイアンズ】
剛田

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】7回裏

アナウンス
「7回裏、小説ウィテングスの攻撃は二番、レフト、鷹峯琇」

鷹峯琇
「なんかスタンドの雰囲気が変わったな」

田井中律
（どうします？）

曽我部恵
（私は直球を投げたい）

【ピシュ！】

【バシィ！】

敷田主審
「ストライク」

鷹峯琇
（これは、見送り）

田井中律
（では変化球お願いします）

【ピシュ！】

鷹峯琇
「カッティング！」

【カキィ】

敷田主審
「ファールボール」

【ピー】アナウンス「ファールボールには充分お気をつけください」

阪神虎之介
「2点差かぁ」

鷹峯琇
「ふぅ～」

曽我部恵
（ピッチャーって疲れるわ）

田井中律
（これお願いします）

【ピシュ！】

【ユラ～】

鷹峯琇
（ナックル…）

【カキィン！】

三塁線を破る…

【バシィ！】

小寺塁審
「アウト！」

田井中律
「憂！」

平沢憂のダイビングキャッチで1ナウト

アナウンス
「三番、サード、紀葉」

紀葉
（そろそろ疲れが見え始めている）

曽我部恵は手で汗を拭ったりと疲労を隠せない。

紀葉
（それじゃ…）

【カキィン！】

紀葉
「楽にして差し上げますか」

ジャストミートで右中間へ…

斉藤薫
「オーライ、オーライ」

秋山澪
「あれ？」

打球はドンドンライトの方へ飛んでくる。

秋山澪
「斉藤さん私に任せて」

斉藤薫
「はい」

しかし

秋山澪
「フェンスギリギリ…」

打球は

秋山澪
「え～い！」

秋山澪がジャンプ！

しかし打球はスタンドへ

「ワアァァァァァァァア！」

紀葉
「やった！」

阪神虎之介
「おぉ！」

紀葉さんの1号本塁打

マウンドに全員集まる。

山中さわ子
「曽我部さんご苦労様」

曽我部恵
「はい」

アナウンス
「桜ヶ丘ティータイム、守備交代をお知らせ致します。サードの平沢憂がピッチャー、ピッチャーの曽我部恵に代わり、立花姫花がサードに入ります。」

ピッキー
「憂がピッチャーですか」

阪神虎之介
「ある意味怖いですね」

ｉｋｋｉ
「そういえば、回の途中途中でキャッチボールをしてましたね」

阪神虎之介
「肩は温まっているのか」

投球練習が終わり

アナウンス
「四番、ショート、ウルトラマンゼロ」

ウルトラマンゼロ
「デュワ！」

阪神虎之介
「どんなボールだろ…」

【ピシュ！】

【バーン！】
１５３ｋｍ

阪神虎之介
「はぁ？」

【バーン！】

【バーン！】

敷田主審
「スットライクバッターアウトゥ！」

卍！

その後も

【バーン！】

敷田主審
「スットライクバッターアウトゥ！」
卍！

阪神虎之介
「最初からコイツ出せよ！」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】7回裏（後書き）

【7回裏終了】

桜ヶ丘	0	1	1	0	0	4	0	—	6
小説	4	0	3	0	0	1	1	—	9

【桜ヶ丘】
平沢唯－曽我部恵一－平沢憂／田井中律

【小説】
ｉｋｋｉ－双樹槇／セブンの独り言－阪神虎之介

【本塁打】
ウルトラマンゼロ（小説）？

斉藤薫（桜ヶ丘）？

紀葉（小説）？

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】8回表

アナウンス
「8回表、桜ヶ丘ティータイムの攻撃は、5番、ファースト、琴吹紬」

阪神虎之介
「コイツもコイツで怖いんだよな～」

双樹槇
（阪神虎之介さん、どうします？）

阪神虎之介
（パワーを裏手に取る、低めの速球）

【ピシュ！】

【バシ！】

敷田主審
「ボール」

阪神虎之介
（今のは入れてよ）

双樹槇
（今のは入れなきゃなぁ…）

阪神虎之介

（低めにストライクからボールにフォーク）

双樹槇
（はい）

【ピシュ！】

双樹槇
「あ！」

【カキィン！】

双樹槇
「しまった！」

阪神虎之介
「失投か…」

要求とは全然違う高めの甘いボールだった。

ピッキー
「これは届くか…」

左中間に飛んだ打球はやっぱりセンターにスライスする。

ピッキー
「飛び込め！」

間に合わないと判断したピッキーさんはヘッドスライディングを試みるが

【ダン】

ピッキー
「わぁ！」

僅か３ｃｍ届かなかった。

しかもバックの鷹峯琇さんが処理を誤りランナーは三塁へ

アナウンス
「六番、レフト、真鍋和」

真鍋和
（スクイズ？）

山中さわ子
（１点を返す！）

阪神虎之介
（スクイズがある…、前進守備で）

紀葉
（はい）

しら
（来たらホームで刺す）

ユーリ
（さぁこい）

ウルトラマンゼロ
（三塁にカバー）

阪神虎之介
（高めに直球！打たれても外野が守る！）

双樹槇
（はい！）

【ピシュ！】

【ダッ！】

阪神虎之介
（よし！ランナー動いた！）

真鍋和
（く…）

【バシィ！】

琴吹紬
「！」

阪神虎之介
「うっし！」

ランナー琴吹紬は三塁に帰ろうとするが

阪神虎之介
「ハイ、アウト」

小寺塁審
「アウト！」

タッチアウト

真鍋和
（せっかくのチャンスが…）

阪神虎之介
（これで勢いはウチにある…、次のジャイアンズ戦に向けて勢いがつけられる）

双樹槇
（よっしゃ次は…）

阪神虎之介
（フォーク）

双樹槇
（はい）

真鍋和
（打たなきゃ）

【ピシュ！】

果敢にも打ちに行く！

真鍋和
（しまった！）

時遅し

【カキィ！】

双樹槇
（よっし！）

ピッチャーゴロで2アウト

アナウンス
「七番、セカンド、鈴木純」

鈴木純
「オッシャァァ！」

バットをブンブン回している。

阪神虎之介
（ブンブン回すなぁ～）

【ピシュ！】

【カキィン！】

真ん中あたりの直球

しかし

ピッキー
「ヤだな、この風の流れ」

【バシ】

二出川塁審
「アウト」

ピッキー
「次は私からか」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】8回表（後書き）

【8回表終了】

桜ヶ丘	0	1	1	0	0	4	0	0	—6
小説	4	0	3	0	0	1	1		—9

【桜ヶ丘】

平沢唯－曽我部恵一－平沢憂／田井中律

【小説】

ｉｋｋｉ－双樹槇／セブンの独り言－阪神虎之介

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】8回裏

「勝利はすぐそこに我が中日ドラゴンズ～」

「中日ドラゴンズ」のドラゴンズマーチが流れた8回裏開始前

しら
「しかし何で応援歌の雰囲気が変わったのかな？」

阪神虎之介
「応援団が7回からチャンステーマメドレーやってるからだね」

しら
「なる程」

アナウンス
「8回裏、小説ウィテングスの攻撃は、六番、センター、ピッキー」

ピッキー
「１５０の速球ならしょっちゅう捕っている」

※詳しくはピッキーさんの小説「プリキュアオールスターズ野球で真剣勝負！！プリキュアドリームカップ」で

田井中律
（こうゆう実績のある選手は怖い）

平沢憂
（どうします？）

田井中律
（様子見ましょう）

【ピシュ】

【バーン！】

敷田主審
「ボール」

１５０ｋｍ

ピッキー
「やっぱり速い…」

平沢憂
「はい！」

【ピシュ！】

【バーン！】

敷田主審
「ストライク」

阪神虎之介
「本当に女子高生かよ」

ピッキー

（まさかコイツ）

【ピシュ！】

ピッキー

（ストレートしか無い？）

【カキィン！】

ジャストミート

打球はセンター方向に…

斉藤薫

「オーライ」

と思いきや

斉藤薫

「あぁ！」

落球

ピッキー

「ウェイ！」

アナウンス

「七番、キャッチャー、阪神虎之介」

阪神虎之介

「リードしてるからどうしようかな？」

ピッキー
（阪神さん送りバント送りバント）

阪神虎之介
（ヤダ）

ピッキー
（……）

阪神虎之介はバットを短く持った。

ピッキー
（やってみろ）

【ピシュ！】

【カキィ！】

打球はセンター前へ

アナウンス
「八番、セカンド、ユーリ」

ユーリ
「１５０は速すぎる…」

平沢憂
（ここで止めなきゃ…）

田井中律
（頼みますよ）

【ピシュ！】

【バーン！】

敷田主審
「ストライク」

ユーリ
「はっや…」

平沢憂
「ふぅ…」

【ピシュ！】

【コン…】

田井中律
「セーフティー？」

ユーリ
「ハハハ」

しかし憂が

平沢憂

「サード！」

【バシ！】

立花姫花
「はい」

小寺塁審
「アウト」

一死1、2塁

アナウンス
「九番、ライト、ジョー・ギブケン」

ジョー・ギブケン
（監督が二塁にいるんですけど）

【ピシュ！】

ジョー・ギブケン
「うぉ！」

【ガギィ…】

キャッチした平沢憂から中野梓にボールが渡り

二出川塁審
「アウト」

中野梓から琴吹紬にボールが渡る

村田塁審
「アウト」

阪神虎之介
「最初から先発憂にしたら?」

山中さわ子
「3点差か…」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】8回裏（後書き）

【8回裏終了】

桜ヶ丘	0	1	1	0	0	4	0	0	—	6
小説	4	0	3	0	0	1	1	0	—	9

【桜ヶ丘】

平沢唯－曽我部恵一－平沢憂／田井中律

【小説】

ｉｋｋｉ－双樹槇／セブンの独り言－阪神虎之介

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】9回表

アナウンス
「小説ウィテングス、守備交代を行います。ファーストしらに代わりまして、上原大人、ウィテングスのファースト、上原大人」

しら
「頑張れ」

上原大人
「はい」

阪神虎之介
「このまま勝ったらヒーローですよ」

しら
「そうか！」

アナウンス
「9回表、桜ヶ丘ティータイムの攻撃は、八番、センター、斉藤薫」

・
・　・　・
・

阪神虎之介
「参ったな…」

現在、無死満塁

3点差の余裕から双樹槇さんは連打を浴びてしまった。

二番秋山澪はプレッシャーに弱いからいいとして問題は三番平沢憂である。

阪神虎之介
「投手交代をしよう」

双樹槇
「いるの？」

阪神虎之介
「オレ」

双樹槇
「はぁ？」

紀葉
「虎之介さんですか？」

阪神虎之介
「だって人数少ないから」

上原大人
「まぁ、仕方ないですよ」

ユーリ
「キャッチャーは誰ですか？」

阪神虎之介
「経験者のピッキーさんで」

ピッキー
「？」

阪神虎之介
「これでもキャッチャーをやるんで１５０は出せますよ…、一応…」

紀葉
「ならどうぞ」

双樹槇
「と言うよりベンチに確か人が残っていましたよね？」

阪神虎之介
「あぁ、次の先発の秘密兵器の桜井秀哉さん？」

双樹槇
「先発なの？」

阪神虎之介
「だからちょっとお休み、ここで崩したら困るし」

紀葉
「次の試合は３日後ですからね」

阪神虎之介
「じゃそうゆう事で」

アナウンス
「小説ウィテングス、守備交代を行います。キャッチャーの阪神虎之介がピッチャー、センターのピッキーがキャッチャー、ピッチャーの双樹槇がセンター、以上に代わります」

ピッキー
「ここに来てキャッチャーですか…」

阪神虎之介
「本人（実際）は全然ダメだけどね１５０でやしない、良くて６０の肩だし、現実はね」

ピッキー
「愚痴こくな、球種は？」

阪神虎之介
「藤川と同じくカーブとフォーク」

ピッキー
「わかりました」

阪神虎之介
「〇〇〇〇（作者の本名）だったら終わってたねｗ」

ピッキー
「止めなさい」

アナウンス
「二番、ライト、秋山澪」

秋山澪
「ヒィィ」

阪神虎之介
（まだビビってる）

ピッキー
（それじゃど真ん中に）

【ピシュ！】

【バン！】

敷田主審
「ストライク」

ｉｋｋｉ
「フォームが数年前の藤川球児だ」

阪神虎之介
（他にも…）

【ガバァ！】

【ピシュ！】

敷田主審
「ストライクツゥ！」

阪神虎之介
（入団間もない頃の松坂大輔のフォームの真似もできます）

※ただ単に作者がモデルにしてるから採用。だって綺麗だもん！

ピッキー
（わぉ）

【ピシュ！】

【バン！】

敷田主審
「スットライクバッターアウト！」

卍！

アナウンス
「三番、ピッチャー、平沢憂」

ピッキー
（この試合の山場だ…）

阪神虎之介
（ピッキーさんどうします？）

ピッキー
（変化球で様子見ましょう）

【ピシュ！】

【バン！】

敷田主審
「ストライク」

ピッキー
（カーブだ、二球目はフォークで）

【ピシュ！】

【カキィ】

小寺塁審
「ファール！」

大声援が聞こえる

「かせかせ憂！」【パーパッパパー】「かせかせ憂！」

阪神虎之介
「ふぅ…」

ピッキー
（トドメは直球！）

【ピシュ！】

【ガギィ！】

敷田主審
「ファールボール」

ピッキー
「どうだ、１５０は速いだろ？」

平沢憂
「そうですね」

阪神虎之介
「ふぅ…」

ピッキー
（一球外せ）

阪神虎之介
（はい）

【ピシュ！】

【バン！】

敷田主審
「ボール」

B●
S●●
O●

風が穏やかになってきた。

阪神虎之介
（大一番だな…）

ピッキー
（直球）

阪神虎之介
（はい）

【ピシュ！】

【カキィン！】

阪神虎之介
「ゲッ…」

しかし

小寺塁審
「ファール」

阪神虎之介
「ホ…」

ピッキー
（ラストはフォークで落としましょう）

阪神虎之介
（そうですね）

平沢憂
（次は変化球が来る！）

【ピシュ！】

平沢憂
（フォーク…）

【バン！】

敷田主審
「…ボール」

ピッキー
「え？」

阪神虎之介
「ストライクだな今のは、まぁいいや」

ピッキー
（高めの直球）

阪神虎之介
（待ってましたぁ！）

【ピシュ！】

平沢憂

（高め！）

【ブゥン！】

敷田主審
「スットライクバッターアウト！」

卍！

【ダダン！】「あと1人！」【ダダン！】「あと1人！」

ライトスタンドから「あと1人」コールが始まった。

阪神虎之介
「いつもなら俺は『きゅーじ！』って叫ぶけど」

ピッキー
（打たせろ、変化球）

阪神虎之介
（はい）

【ピシュ！】

【カキィン！】

打ち上げた。

阪神虎之介
「サード！」

紀葉さんがキャッチ！

小寺塁審

「アウト！ゲームセット！」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】9回表（後書き）

【試合終了】

桜ヶ丘　０１１　００４　０００　―６

小説　　４０３　００１　１０Ｘ　―９

【桜ヶ丘】

平沢唯－曽我部恵一平沢憂／田井中律

【小説】

ｉｋｋｉ－双樹槇一阪神虎之介／セブンの独り言－阪神虎之介－ピッキー

【勝利投手】

ｉｋｋｉ（１勝）

【セーブ投手】

阪神虎之介（１Ｓ）

【敗戦投手】

平沢唯（１敗）

【桜ヶ丘本塁打】

斉藤薫？

【小説本塁打】

ウルトラマンゼロ？

紀葉？

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】試合終了その後（前書き）

試合結果（短縮に）

【学園都市】２ー５【マリオ】

【インデックス】０ー９【亀有】

【ポケモン】３ー１９【ジャイアンズ】

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】試合終了その後

アナウンサー
「放送席！放送席！ヒーローインタビューです！今日のヒーローはこの人！先制３ベースヒットを放ったしら選手です！」

しら
「ありがとうございます」

阪神虎之介
「しらさんがヒーローだ」

ｉｋｋｉ
「まぁ次もとはいかないと思うけど」

ピッキー
「とりあえずお疲れさまでした！」

ヒーローインタビュー終了後

阪神虎之介
「次の対戦相手の『ジャイアンズ』ですが…」

ウルトラマンゼロ
「ですが？」

阪神虎之介
「今日の試合、まだ８回裏で１９－３です」

ピッキー
「ゲェ」

紀葉
「途中経過見たけど悲惨だったよ」

しら
「ヤバいなぁ」

阪神虎之介
「それでは一応今のところの先発メンバーを発表致します」

?:ユーリ（二）
?:双樹槇（中）
?:紀葉（三）
?:ウルトラマンゼロ（遊）
?:しら（一）
?:ピッキー（左）
?:セブンの独り言（捕）
?:千歳涼介（右）
?:桜井秀哉（投）

阪神虎之介
「とりあえずのスタメンです」

ｉｋｋｉ
「俺は？」

阪神虎之介

「その次の試合の先発です」

ｉｋｋｉ
「わかりました」

阪神虎之介
「それでは3日後、場所は西武ドームです」

ピッキー
「アウェイか」

阪神虎之介
「頑張りましょう！」

「オー！！」

【小説ウィテングス対桜ヶ丘ティータイム】試合終了その後（後書き）

次は西武ドームでの【ジャイアンズ対小説ウィテングス】です。

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】試合開始前（前書き）

グッドウィルドームで試合です

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】試合開始前

阪神虎之介
「西武ドーム！」

しら
「来ましたね」

阪神虎之介
「ブルペンが丸見えだ！」

ピッキー
「ここはベンチ逆なんですね」

阪神虎之介
「だから俺らは一塁側」

紀葉
「ジャイアンズ叩くぞ！」

しら
「……」

紀葉
「どうしましたしらさん？」

しら
「いや…今打撃練習してるのって…」

【カキィン！】

ドラえもん
「ナイスバッティング！」

阪神虎之介
「クロえもん…？」

しら
「そしてブルペンにいるのって…」

【バーン！】

ブルペンキャッチャー
「ナイスボール！」

阪神虎之介
「さとし…？」

ｉｋｋｉ
「何でドラベースのキャラがいるんだ？」

ピッキー
「まさかシロえもんとかいないだろ～な～」

阪神虎之介はベンチから飛び出してドラえもんに聞いた。

阪神虎之介
「まさかシロえもんまでいるのか？」

ドラえもん
「さすがにいませんよ」

阪神虎之介
「それと秘密道具は使うなよ、1回でも使ったら退場だからな」

ドラえもん
「わかってますよ」

阪神虎之介
「それじゃ」

そして

紀葉
「打撃練習の時間だ！」

しら
「打つぞ！」

そして…

アナウンス
「両チームの監督はバックネットまで来てください」

阪神虎之介
「それでは」

剛田武
「行ってくるわ」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】試合開始前（後書き）

何やってんだオレ…

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】スタメン発表（前書き）

連続投稿！

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】スタメン発表

アナウンス
「お待たせしました、リーグ戦ジャイアンズ対小説ウィテングスのスターティングメンバー及びアンパイアをお知らせ致します。まず先攻の小説ウィテングス、一番、セカンド、ユーリ」

【ダダン】「ユーリ！」【ダダン】「ユーリ！」【ダダン】「ユーリ！」

アナウンス
「二番、センター、双樹槇」

【ダダン】「ふーたーき！」【ダダン】「ふーたーき！」【ダダン】「ふーたーき！」

アナウンス
「三番、サード、紀葉」

【ダダン】「のーりーは！」【ダダン】「のーりーは！」【ダダン】「のーりーは！」

アナウンス
「四番、ショート、ウルトラマンゼロ」

【ダダンダン】「ゼロ！」【ダダンダン】「ゼロ！」【ダダンダン】「ゼロ！」

アナウンス

「五番、ファースト、しら」

【ダダン】「しーら！」【ダダン】「しーら！」【ダダン】「しーら！」

アナウンス
「六番、レフト、ピッキー」

【ダダン】「ピッキー！」【ダダン】「ピッキー！」【ダダン】「ピッキー！」

アナウンス
「七番、キャッチャー、セブンの独り言」

【ダダンダン】「セブン！」【ダダンダン】「セブン！」【ダダンダン】「セブン！」

アナウンス
「八番、ライト、千歳涼介」

【ダダン】「ち、と、せ！」【ダダン】「ち、と、せ！」【ダダン】「ち、と、せ！」

アナウンス
「九番、ピッチャー、桜井秀哉」

【ダダン】「さ、く、ら、い！」【ダダン】「さ、く、ら、い！」【ダダン】「さ、く、ら、い！」

アナウンス
「続きまして、後攻のジャイアンズ、一番、ショート」

スネ夫
『骨川スネ夫です』

【パララ～】「そ～れ、ス、ネ、夫」

アナウンス
「二番、ライト」

出木杉
『出木杉です』

【パララ～】「そ～れ、出木杉」

アナウンス
「三番、サード」

クロえもん
『クロえもんです』

【パララ～】「そ～れ、ク～ロ」

アナウンス
「四番、キャッチャー」

剛田武
『剛田武です』

【パララ～】「そ～れ、ジャイアン！」

アナウンス
「五番、ファースト」

源静香
『源静香です』

【パララ～】「そ～れ、し、ず、か」

アナウンス
「六番、セカンド」

ノビスケ
『野比ノビスケです』

【パララ～】「そ～れノビスケ！」

アナウンス
「七番、センター」

安雄
『安雄です』

【パララ～】「そ～れ、や、す、お！」

アナウンス
「八番、ライト」

はる夫

『はる夫です』

【パララ～】「そ～れ、は、る、夫」

アナウンス
「九番、ピッチャー」

さとし
『さとしです』

【パララ～】「そ～れ、さとし！」

ｉｋｋｉ
「すげぇなあっちのスタメン発表」

阪神虎之介
「いきなり選手が出てきて自己紹介だもんな」

アナウンス
「主審小寺、塁審、一塁西本、二塁栄村、三塁石山、公式記録員は藤原、試合開始までしばらくお待ちください」

阪神虎之介
「全員、プロ野球の審判です」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】スタメン発表（後書き）

次回から試合開始

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】1回表

アナウンス
「1回表、小説ウィテングスの攻撃は一番、セカンド、ユーリ」

ユーリ
「こいやぁ！」

さとし
（初球ストレート）

ジャイアン
（はいよ）

【ピシュ！】

【バァーン！】

ユーリ

小寺主審
「ストライク」

コデライク

ユーリ
「はぇ…」

阪神虎之介

「今の１５０出てたぞ…」

ｉｋｋｉ
「ドーピングしてるだろ…」

さとし
（二球目…）

【ピシュ！】

【バァーン！】

小寺主審
「ストライクツゥ！」

コデライク

阪神虎之介
「しかもキレがある」

さとし
（三球目…）

【ピシュ！】

【バァーン！】

小寺主審
「ストライクバッターアウト！」

コデライク

ユーリ
「……」

双樹槇
「どんな球でしたか？」

ユーリ
「バット短く持った方がいいです」

アナウンス
「二番、センター、双樹槇」

双樹槇
「バットを短くか…」

【ピシュ！】

双樹槇
「おわ！」

【バァーン！】

小寺主審
「ストライク」

コデライク

双樹槇

（ホップしてる、厄介だ）

【ピシュ！】

双樹槇
「うらぁ！」

【ガギィ】

小寺主審
「ファールボール」

双樹槇
「いった…」

紀葉
「うわ～、重そう」

双樹槇
「アイツ本当に小学生？」

【ピシュ！】

双樹槇
「！フォーク…」

【バシィ！】

小寺主審
「スットライクバッターアウト！」

コデライク

阪神虎之介
「うわ…」

アナウンス
「三番、サード、紀葉」

紀葉
「打てる気がしない…」

さとし
「あらよっと」

【ピシュ！】

【バァーン！】

小寺主審
「ストライク」

コデライク

紀葉
「（；ω；）」

【ピシュ！】

【バァーン！】

小寺主審
「ストライクツゥ」

コデライク

紀葉
「（；ω；）」

阪神虎之介
「なんかヤバいなぁ…」

紀葉
「バット短く持つか」

【ピシュ！】

【カキィ】

三塁後方へ

石山塁審
「ファールボール」

紀葉
「当てた…」

【ピシュ！】

紀葉
「ゲェ！フォーク」

【ブゥン！】

小寺主審
「スットライクバッターアウト！」

コデライク

阪神虎之介
「ヤバいなぁ…3三振…」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】1回裏

桜井秀哉
「よろしくお願いします」

セブンの独り言
「変化球がかなりあるから、それ主体に行くぞ」

桜井秀哉
「はい」

阪神虎之介
「ジャイアンズって速球にはかなり強いから気をつけて」

ピッキー
「嫌なチームだな」

アナウンス
「1回裏、ジャイアンズの攻撃は、一番、ショート、スネ夫」

スネ夫
「さ～て、先頭打者ホームランでも」

セブンの独り言
（内角のスライダー）

桜井秀哉
（はい）

【ピシュ！】

スネ夫
「わぁ！」

【バァーン！】

スネ夫
「マ～マ」

ドラえもん
「この前のチームと違い、要注意選手が何人もいるぞ」

剛田武
「そうだな」

【ピシュ！】

スネ夫
（フォーク…）

【カキィ】

紀葉
「そ～れ」

一塁送球

【バシィ！】

西村墨審
「アウト」

しら
「お疲れ」

アナウンス
「二番、ライト、出木杉」

出木杉
「ハハハ」

セブンの独り言
（今のムカついた、内角にストレート）

桜井秀哉
（はい）

【ピシュ！】

【バァーン！】

１５５ｋｍ

出木杉
「……」

セブンの独り言
「ナメんな」

出木杉
（短く持とう…）

【ピシュ！】

【ガギィン】

小寺主審
「ファールボール」

セブンの独り言
（決め球はコレ）

桜井秀哉
（はい）

【ピシュ】

【ユラー】

出木杉
（ナックル！？）

【ブゥン！】

小寺主審
「スットライクバッターアウト！」

コデライク

ドラえもん
「アイツ色んな変化球があるんだな」

セブンの独り言
（さて…）

アナウンス
「三番、サード、クロえもん」

セブンの独り言
（コイツだよ）

桜井秀哉
（クロえもん…）

クロえもん
「こい…」

セブンの独り言
（初球様子を見るぞ…）

桜井秀哉
（はい）

【ピシュ！】

【バァーン】

小寺主審
「ボール」

セブンの独り言
（次はストライクからボールになるフォーク）

【ピシュ！】

【カキィ！】

桜井秀哉
「いった？」

セブンの独り言
「大丈夫、ボールだからスタンドまではいかない！」

しかしボールはドンドンレフトへ

セブンの独り言
「嘘だろ…」

【バシ】

ピッキー
「間に合った！」

石山塁審
「アウト」

「ワァァァア！！」

ライトスタンドから声援が聞こえる。（西武ライオンズはホームと

アウェイのベンチを逆にしてるのでそれを真似した）

【ダダン！】「ピッキー！」【ダダン！】「ピッキー！」【ダダン！】「ピッキー！」

セブンの独り言

「しかし、あれであそこまで行くなら次考えておかないと」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】1回裏（後書き）

【1回裏終了】

小説　0　—0

ジャイ　0　—0

【小説】

桜井秀哉／セブンの独り言

【ジャイアンズ】

さとし／剛田武

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】2回表

阪神虎之介
「初回3三振だから次は3本塁打でお願いします」

ピッキー
「無理」

アナウンス
「2回表、小説ウィテングスの攻撃は四番、ショート、ウルトラマンゼロ」

ウルトラマンゼロ
「デュワ！」

剛田武
（主砲ですから注意を払って）

さとし
（いえ、大丈夫です）

【ピシュ！】

ウルトラマンゼロ
「デュワ！」

【ガギィ】

打球はクロえもんの所へ

クロえもん
「あらよっと」

【バシィ！】

西本塁審
「アウト」

アナウンス
「五番、ファースト、しら」

「しらさぁん！」

「頼むぞ～！」

前試合からしらさんの所にはファンが殺到している。

ファンレターも貰っている。

一部は
「マリーンズに入ってください」とかだけど…

しら
「バットを短く持とう」

剛田武
（それでは）

さとし

（はい）

しら

（まずはタイミング合わせのスイングだ）

【ピシュ】

【カキィン！】

しら

「え？」

剛田武

「あ？」

さとし

「え…？」

高めのちょっとしたボール球にフルスイングした打球はジャストミート、そして…

はる夫

「マジかよ…」

スタンドイン

「ワァァァア！！」

しら

「オッシャァァ！」

阪神虎之介
「マジかぁ！」

紀葉
「すげー」

ピッキー
「タイミングが合ったのと、さとしが緩いボール、所謂失投したからか」

しら
「ピッキーさん！」

ピッキー
「はい！」

ホームインしたしらさんはピッキーさんとハイタッチ

阪神虎之介
「勢いが出てきた」

ｉｋｋｉ
「クロえもんを抑えたのが効きましたね」

アナウンス
「六番、レフト、ピッキー」

ピッキー
「よぉし！」

さとし
（くっそぉ～）

【ピシュ！】

【カキィン！】

さとし
「！」

スネ夫
「ゴハァ！」

鋭い打球がスネ夫の腹を直撃。

結果はヒット

クロえもん
「スネ夫、大丈夫か？」

スネ夫
「はい」

アナウンス
「七番、キャッチャー、セブンの独り言」

阪神虎之介
「連打は怖いよ…」

作者は連打の怖さをつくづく感じた事がある。

２０１１年８月１４日のヤクルト対阪神戦

９回表終了１－８で阪神がリードしていたのに…

９回裏のヤクルトが６点を取りギリギリ７－８で勝った試合。

怖かった。

セブンの独り言
「連打で行こう」

しかし…

【ブゥン！】

小寺主審
「スットライクバッターアウト！」

コデライク

セブンの独り言
「はぁ…」

続く八番千歳涼介さんも倒れ、この回１点止まり

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】2回表（後書き）

【2回表終了】

小説　０１　―１

ジャイ　０　―０

【小説】

桜井秀哉／セブンの独り言

【ジャイアンズ】

さとし／剛田武

【小説本塁打】

しら1号？

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】2回裏（前書き）

【告知】

前半戦終了後、「作者ｖｓアニメオールスター」を開催します。
「アニメオールスターチーム」はファン投票で決めさせて頂きます。

別の短編という形で投票所を設けますのでよろしくお願いします。

それと、この試合終了後、新入団選手発表が行われ、各チームに助っ人と新入団選手が発表されます。

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】2回裏

三塁ブルペンでひろしがピッチング練習を行う。

【バシィ！】

ドラえもん
「ナイスボール」

アナウンス
「2回裏、ジャイアンズの攻撃は、四番、キャッチャー、剛田武」

剛田武
「すぐ取り返す！」

桜井秀哉
「ふん」

【ピシュ！】

剛田武
「フンガァ！」

【カキィン】

紀葉
「わ！」

【バシィ！】

石山塁審
「アウト！」

剛田武
「畜生」

アナウンス
「五番、ファースト、源静香」

源静香
「打ったるわいボケェ！」

セブンの独り言
「口悪！」

【ピシュ！】

【カキィン！】

セブンの独り言
「それでかぁ…」

バックスクリーン直撃弾

桜井秀哉
「ぐ…」

セブンの独り言
「同点かぁ…」

源静香がホームイン！

セブンの独り言
「打力が凄いなぁ…」

アナウンス
「六番、セカンド、ノビスケ」

ノビスケ
「続こう」

【ピシュ！】

ノビスケ
「のあ！」

【ガギィ】

桜井秀哉
「オーライ」

【パシ】

小寺主審
「アウト」

続く安雄も凡退した。

安雄

「省略されたー！！」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】2回裏（後書き）

【2回裏終了】

小説　0　1　―　1

ジャイ　0　1　―　1

【小説】

桜井秀哉／セブンの独り言

【ジャイアンズ】

さとし／剛田武

【小説本塁打】

しら1号？

【ジャイアンズ本塁打】

源静香3号？

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】3回表（前書き）

～記者席～

記者？
「どう？試合は？」

記者？
「1－1の同点です」

記者？
「やっぱりこの前みたいには行かないか～」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】3回表

アナウンス
「3回表、小説ウィテングスの攻撃は、九番、ピッチャー、桜井秀哉」

桜井秀哉
「さとしって誰だよ、ドラベースの投手はひろしだろ」

剛田武
「素で作者が間違えたのを隠蔽したんですよ」

桜井秀哉
「なるほど」

【ピシュ！】

【バァーン！】

小寺主審
「ストライク」

コデライク

桜井秀哉
「はぇぇ…」

【ピシュ！】

【カキィ】

ボールは三塁スタンドへ

アナウンス
「ファールボールには充分お気をつけください」

桜井秀哉
「ふぅ…」

剛田武
（一球ボールで）

【ピシュ】

【バァーン】

小寺主審
「ボール」

剛田武
（では決めますか）

【ピシュ！】

桜井秀哉
「フォーク！」

【ブゥン】

小寺主審
「スットライクバッターアウト！」

コデライク

アナウンス
「一番、セカンド、ユーリ」

ユーリ
「2打席連続は避けたい…」

【ピシュ！】

ユーリ
「く…」

【カキィ】

ユーリ
「畜生！」

打球はクロえもんの所へ行き送球

西本塁審
「アウト」

アナウンス
「二番、センター、双樹槇」

双樹槇

「バットは短く」

さとし
（心はデカく）

【ピシュ】

【カキィン】

【パシ】

【ビュ】

西本塁審
「アウト」

ショートゴロ

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】3回裏

アナウンス
「3回裏、ジャイアンズの攻撃は、八番、レフト、はる夫」

はる夫
「（怒）（怒）（怒）（怒）」

スタメン発表で守備位置間違えられた事にキレてるはる夫くん

【ピシュ】

はる夫
「オラァ！」

【カキィン】

【バシィ！】

紀葉
「捕ったど～」

石山墨審
「アウト！」

アナウンス
「九番、ピッチャー、さとし」

さとし

「ひろしの親戚です」

ｉｋｋｉ
「急な設定だな」

セブンの独り言
（初球チェンジアップで）

桜井秀哉
（初球に？）

【ピシュ！】

【フワ】

さとし
（チェンジアップ！）

【パシ】

小寺主審
「ストライク」

コデライク

さとし
「初球緩い球で来たか」

セブンの独り言
「悪いか」

さとし
「別に」

セブンの独り言
（次は速球）

桜井秀哉
（はい）

【ピシュ】

さとし
（緩い球の後に速球が来るのは分かってんだよ！）

【カキィン！】

桜井秀哉
「なに！」

さとしは高々とバットを上げてゆっくりと走り出した。

ピッキー
「あ～あ…」

「ワァァア！！」

阪神虎之介
「チッ」

ホームラン

小説　１－２　ジャイ

アナウンス
「一番、ショート、スネ夫」

スネ夫
「この辺で僕も」

【カキィン】

スネ夫
「ホームラン！」

【パシ】

栄村墨審
「アウト」

セカンドフライ

アナウンス
「二番、ライト、出木杉」

出木杉
「天才出木杉のおでましだ！」

セブンの独り言
（自分の事を『天才』っていうのは引くわ…）

【ピシュ！】

出木杉
「それ！」

【カキィン！】

【バシィ！】

小寺主審
「アウト」

ピッチャーライナーに抑えた。

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】3回裏（後書き）

【3回裏終了】

小説　０１０　―１

ジャイ　０１１　―２

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】4回表（前書き）

プロ野球のある応援団が登場！

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】４回表

～ライトスタンド～

応援団（ＣＤ）
「あのすいません」

応援団（ＴＨ）
「何ですか？」

応援団（ＣＤ）
「阪神の応援団ですよね？」

応援団（ＴＨ）
「昔な」

応援団（ＣＤ）
「昔？」

応援団（ＴＨ）
「そう、中虎連合なんだ」

応援団（ＣＤ）
「中虎連合？」

応援団（ＴＨ）
「２００４年までな」

応援団（ＣＤ）

「へぇ～」

応援団（ＴＨ）
「で、一時的に復活したわけだ」

応援団（ＣＤ）
「そうなんですか」

応援団（ＴＨ）
「まぁよろしく」

応援団（あ、はい）

※今回は諸事情により福岡ソフトバンクホークスの応援団が来ていない。

応援団（ＴＨ）
「そ～れ！」

「絶対勝つぞ！ウィテングス！絶対勝つぞ！ウィテングス！絶対勝つぞ！ウィテングス！」

紀葉
「わぁ何だ！」

しら
「凄い応援旗の数」

阪神虎之介
「中虎だぁ～（泣）」

ピッキー
「中トラ？」

阪神虎之介
「トラックじゃないから、昔の阪神の応援団」

ピッキー
「あぁ」

阪神虎之介
「凄かったなぁ～」

ピッキー
「確かに凄そう」

アナウンス
「４回表、小説ウィテングスの攻撃は、三番、サード、紀葉」

「「かっせ！かっせ！かっせ！紀葉！」かっせ！かっせ！かっせ！紀葉！」

紀葉
「凄い声援だなぁ」

応援団（ＴＨ）
「今回のみ紀葉さんの応援歌は岡田の曲になります！『今日は！』」

「おぉ～！」

岡田彰布（オリックス監督）の応援歌は同じみの「コンバットマーチ」を使ったものである。

「ホームラン～、ホームラン～、ワッショイワッショイ！ホームラン～、ホームラン～、ワッショイワッショイ！ホームラン！ホームラン！場外！場外！ホームラン！かっ飛ばせ！紀葉！」

阪神虎之介
「やっぱり阪神っていたらこれだろ（笑）」

紀葉
（集中！集中！）

さとし
（うるさいなぁ…）

「ホームラン！ホームラン！場外！場外！ホームラン！」

鳴り止まない

【ピシュ！】

【カキィン！】

さとし
「あ！しまった！」

三塁線を突き抜けるヒット

ウルトラマンゼロ

「デュワ！」

アナウンス
「四番、ショート、ウルトラマンゼロ」

さとし
「気合い入れ直す！」

ウルトラマンゼロ
「やってみろ」

【ピシュ！】

ウルトラマンゼロ
「本当に小学生か？」

剛田武
（低めに直球）

【ピシュ！】

ウルトラマンゼロ
「デュワ！」

【カキィン！】

さとし
「ショート！」

スネ夫
「ギャ！」

打球を捌こうとしたスネ夫は処理を誤り、外野に

無死1、2塁

アナウンス
「五番、ファースト、しら」

しら
「やったる！」

剛田武
（チャンスに強いからなぁ～）

さとし
（嫌なバッターだ）

さとしは前打席のホームランが横切った。

【ピシュ！】

しら
（ボール！）

【バシィ！】

小寺主審
「ボール」

しら
（よし）

【ピシュ！】

【カキィン！】

阪神虎之介
「よっしゃあ！」

打球はライトの方向へ

ドラえもん
「マジ？」

ライトの出木杉がフェンスにへばりつく…

打球とフェンスを確認して…

【ガシィ！】

しら
「え？」

【バシィ！】

しら

「うそ！」

フェンスによじ登った出木杉がボールをキャッチ。

西本塁審
「アウト！」

紀葉
「ゴー！」

「もしや…」と思った紀葉さんは二塁まで戻った後、キャッチしたのを確認してタッチアップ！

出木杉
「ファースト！」

しかし狙われたのは一塁だった。

ウルトラマンゼロ
「デュワ！？」

慌てて二塁付近から一塁に戻るウルトラマンゼロ

【バシィ！】

源静香
「タッチ！」

西本塁審
「アウト！」

二死三塁

アナウンス
「六番、レフト、ピッキー」

ピッキー
「三塁ランナーは絶対返す」

さとし
「はぁ～」

中虎連合会指揮のもと、チャンステーマが行われる。
だけど中虎連合のチャンテは先程紀葉さんの時と同じ「コンバットマーチ」である。

ピッキー
（剛田の配球を見てると速球中心で組み立てている）

剛田武
（さとし、ストレート）

【ピシュ！】

【バシィ！】

小寺主審
「ストライク」

コデライク

ピッキー
（やっぱり俺に対しても速球か？）

剛田武
（次はフォーク）

さとし
（はい）

【ピシュ！】

ピッキー
（とりあえず見送る）

【バシィ！】

小寺主審
「ボール」

ピッキー
（これは見せ球か？）

剛田武
（ストレート）

さとし
（はい）

【ピシュ！】

ピッキー
（！）

【バシィ！】

小寺主審
「ストライクツゥ」

ピッキー
（やっぱり見せ球か？）

剛田武
（最後はこれで決めるぞ）

さとし
（はい）

【ピシュ】

ピッキー
（緩いストレート…ナメるな！）

ピッキーさんはストレートだと思って振りにいくが

【フワ…】

ピッキー
（しまった！）

【ブゥン！】

小寺主審
「スットライクバッターアウト！」

コデライク

ピッキー
「チェンジアップだと…」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】４回表（後書き）

【４回表終了】

小説　０１０　０　―１

ジャイ　０１１　―２

【小説】

桜井秀哉／セブンの独り言

【ジャイアンズ】

さとし／剛田武

【小説本塁打】

しら１号？

【ジャイアンズ本塁打】

源静香３号？

さとし１号？

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】4回裏

～ネクストバッターズサークル～

【コン、コン】

クロえもん
「ふぅ…」

アナウンス
「4回裏、ジャイアンズの攻撃は、3番、サード、クロえもん」

桜井秀哉
「うわぁ…」

セブンの独り言
（こいつはどうしょう…）

桜井秀哉
（どうしょうもない）

セブンの独り言
（低めにフォーク）

【ピシュ！】

クロえもん
「捕らえたぁ！」

【カキィン！】

桜井秀哉
（ゲ！）

打球はライナーでセンター双樹槇のグラブへ

栄村墨審
「アウト！」

アナウンス
「四番、キャッチャー、剛田武」

セブンの独り言
（力で押し切るバッターは緩いボールで）

桜井秀哉
（はい）

【ピシュ！】

剛田武
（ぬおお！）

【ガギィ！】

打球は頭上高く上がった。

セブンの独り言

「おーらい！」

【バシィ！】

小寺主審
「アウト！」

アナウンス
「五番、ファースト、源静香」

セブンの独り言
（嫌なバッターが続く…）

阪神虎之介
「破壊力満点だな随分と」

セブンの独り言
（……どうしよっかぁ～）

桜井秀哉
（高めにフォーク）

セブンの独り言
（それでいく？）

桜井秀哉
（はい）

【ピシュ！】

源静香
「高めは私の絶好球♪」

【カキィ！】

源静香
「あぁ畜生フォークだコンニャロ！」

セブンの独り言
「ホント、口悪」

ピッチャーゴロ

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】４回裏（後書き）

【４回裏終了】

小説　０１０　０　―１

ジャイ　０１１　０　―２

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】5回表

アナウンス
「5回表、小説ウィテングスの攻撃は、七番、キャッチャー、セブンの独り言」

セブンの独り言
（150の速球にフォーク、そしてさっき見せたチェンジアップ、厄介な相手だ）

剛田武
（初球は外角にストレート）

【ピシュ！】

【バァーン！】

小寺主審
「ストライク」

コデライク

セブンの独り言
「え？入っているの？」

小寺主審
「そうだ」

セブンの独り言

「へぇ〜、あれが…」

小寺主審
「ぐ…」

セブンの独り言
（まぁ今のは正直、どっちだっていいけどね）

剛田武
（さっきとほぼ同じとこ）

さとし
（わかった）

【ピシュ！】

【バァーン！】

小寺主審
「ボール」

剛田武
「！！！」

セブンの独り言
（しめた）

阪神虎之介
（よくやった）

何やったと言えば、さっきの判定でセブンの独り言さんは「え？入

っているの？」といちゃもんを付けた時、審判に「え？自分が間違っているの？」と思わせた。

例え野球が他のスポーツよりも審判が神格化されたスポーツとは言え、審判も人である。

剛田武
（さっきのでストライクゾーンが狭まったし…、コイツマジないわ）

心の中で言っているから良いけど、間違って言うもんなら退場モンの発言である。（審判に「バカ」って言ったら退場です）

さとし
（じゃあ、少し真ん中に投げます）

【ピシュ！】

セブンの独り言
（♪）

【カキィン！】

打球はセンター前に

阪神虎之介
（今回は慎重に生かせて貰います）

阪神虎之介は千歳涼介さんにサインを送る

千歳涼介

（流せ？エンドラン？）

ピッキー
（それどこが慎重だよ）

剛田武
（恐らく1点を穫るために送りバントをしてくるはずだ、高めに持って来い）

さとし
（はい）

【ピシュ！】

千歳涼介
（それ！）

【カキィン！】

剛田武
「あ？」

さとし
「エンドラン！？」

「送りバント」と予測した内野陣、源静香と野比ノビスケの間を抜ける

源静香
「こん畜生がぁ！」

阪神虎之介
「うわ〜、こぇ〜」

一塁ランナーは三塁へ

アナウンス
「9番、ピッチャー、桜井秀哉」

桜井秀哉
（スクイズ？）

阪神虎之介
（それはあちらさんも読んでる）

現に三塁クロえもんが前進している状況だ。

阪神虎之介
（桜井さん…）

阪神虎之介があるサインを出す。

桜井秀哉
（あ、それですか…）

剛田武
（絶対スクイズしてくる）

そう思った矢先

【ピシュ！】

【ダッ！】

剛田武
「！！？」

一塁ランナー千歳涼介さんが盗塁

内野陣が前進守備しているため、投げても間に合わない。

無死2、3塁である。

もし、こいつが八番打者でこの状況だったら敬遠だったけど、今ネクストバッターズサークルにいるのはユーリさんである。

剛田武
（1点を犠牲にしたくは無いな）

さとし
（どうします？）

剛田武
（アレ（阪神虎之介）だったら強行作戦も有り得る、だったら）

サインを出す。

さとし
（なる程…、よし！）

【ピシュ！】

桜井秀哉
（ヒットエンドラン！）

打ちにいくが…

桜井秀哉
（内角！？…クッソ…）

【バン！】

小寺主審
「ストライク」

コデライク

セブンの独り言
「ゲェ！」

既にセブンの独り言さんは本塁間近、千歳涼介さんに関しては三塁にいる。

急いでセブンの独り言さんは戻るが

セブンの独り言
「アレ？」

三塁には千歳涼介さんがいる。

千歳涼介
「??」

どうすればいいのか分からない状況だ。

セブンの独り言
「???」

三塁に2人がいる状況だ。

阪神虎之介
「千歳さん戻れ!!」

咄嗟に阪神虎之介が叫ぶが

剛田武
「タッチ!」

石山塁審
「アウト」

千歳涼介
「え?」

セブンの独り言
「は?」

何が何だが分からず、つい三塁から足を離した瞬間。

剛田武

「タッチ！」

石山塁審
「アウト！」

セブンの独り言
「え？どゆこと？」

石山塁審
「2人ともアウトだよ」

セブンの独り言
「そうなの？」

何が何だが分からず2人はベンチに戻る。

セブンの独り言
「え？どういうこと？」

阪神虎之介
「まぁアレはドンマイ」

説明すると

・ランナーが2、3塁で打者が打った時、守備で挟まれた3塁ランナーが3塁に戻ったとします。

・しかし2塁ランナーが3塁にいたとします。

・この場合、先に3塁ベースを占有していた者（この場合だとセブ

ンの独り言さん）が優先となり、2塁ランナーはフライと同様、2塁に戻らないとアウト。（だから「千歳さん戻れ！！」と）

・だからさっきは1アウトですんだが、セブンの独り言さんが誤ってベースから離れてしまった場合、それは盗塁の時と同じになるからタッチすればアウト。

・ルール間違ってたらゴメン。ぶっちゃけ本当かは自信ない。

阪神虎之介
「プロでもよくある」

ピッキー
「まぁ野球みたいにゴチャゴチャしているスポーツは無いわな」

実際、野球のルールは覚えるのが大変だ。

この小説では、分かる所なら書くつもりだ。

桜井秀哉
「うわ～、無死2、3塁から二死ランナー無しですか」

剛田武
（へへへ…）

これによって気を楽にしたさとしは

小寺主審
「スットライクバッターアウト！」

桜井秀哉さんを三振にするのであった。

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】5回表（後書き）

【5回表終了】

小説　０１０　００　―１

ジャイ　０１１　０　―２

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】5回裏

アナウンス
「5回裏、ジャイアンズの攻撃は、六番、セカンド、ノビスケ」

阪神虎之介
「ノビスケってさ」

ｉｋｋｉ
「え？」

阪神虎之介
「のび太の息子？」

ｉｋｋｉ
「じゃない？」

阪神虎之介
「で、のび太どこ？」

ｉｋｋｉ
「さぁ」

ノビスケ
（俺もこの時代生まれてないんだよなぁ～）

セブンの独り言
（内角にボールからストライクになるカーブ）

桜井秀哉
（はいよ）

【ピシュ！】

ノビスケ
「う！」

小寺主審
「ストライク」

コデライク

桜井秀哉さんはナックルボーラである。
なので、独特のテンポで投げる。

【ピシュ！】

【ふわっ】

ノビスケ
（ナックルだ！）

【パシ】

小寺主審
「ストライクツゥ」

コデライク

ノビスケ
（最後はカーブか…、それともナックルか…）

【ピシュ！】

ノビスケ
「！！？」

【バァーン！】

小寺主審
「スットライクバッターアウト！」

コデライク

ノビスケ
「ストレートかよ」

アナウンス
「七番、センター、安雄」

安雄
「やっと出番だぜ！」

【ピシュ！】

安雄
「ヘーイ！」

【カキィン！】

【パシ】

【ビュ！】

【バシィ！】

西本塁審
「アウト！」

安雄
「……」

アナウンス
「八番、レフト、はる夫」

キャッチャーフライ

はる夫
「脇役だからって出番消すなぁ！！」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】5回裏（後書き）

【5回裏終了】

小説　０１０　００　―１

ジャイ　０１１　００　―２

【小説】

桜井秀哉／セブンの独り言

【ジャイアンズ】

さとし／剛田武

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】6回表

アナウンス
「6回表、小説ウィテングスの攻撃は、一番、セカンド、ユーリ」

ユーリ
「何かこの試合嫌な流れだなぁ」

さとし
「はぁ～」

剛田武
「初球はストレート」

さとし
（はい）

【ピシュ！】

【コン】

さとし
「！」

剛田武
「サード！」

クロえもん
「わかってらい！」

【ドドドド】

クロえもんは素手でボールを掴むと一塁送球

【バシ】

西本塁審
「セーフ」

セーフティーバントで出塁。

阪神虎之介
「足早」

アナウンス
「二番、センター、双樹槇」

双樹槇
「続くぞ！」

さとし
（走りそうで怖い）

【ピシュ】

【カキィン！】

さとし
「あっ」

盗塁を恐れたボールを捕らえ、センター前ヒット

アナウンス
「三番、サード、紀葉」

紀葉
「本塁打で逆転だ！」

剛田武がマウンドに向かう。

剛田武
「逆に盗塁の心配が無くていい」

さとし
「ですね」

紀葉
「ふぅ～」

紀葉さんは気持ちを落ち着かせる。

剛田武
（初球はコレで）

さとし
（はい）

【ピシュ！】

【ガギィ！】

打球は一塁スタンドへ

アナウンス
「打球の行方は十分お気をつけください」

紀葉
（重い…）

剛田武
（ここ一番のボールだ、それをもう一球）

【ピシュ！】

【ガギィ！】

さとし
（またファールか）

紀葉
「ふぅ～」

剛田武
（速球にタイミングが合ってるから、チェンジアップお願いします）

さとし
（はい）

しかし

【ピシュ！】

剛田武
「あぁ！」

ボールは遥か離れて左バッターの所へ

勿論剛田武が捕れる訳も無く

打者はそれぞれ進塁

剛田武
「落ち着け！」

さとし
（ヤバい…）

動揺したさとしは紀葉さんにボールを当ててしまう。

紀葉
「いった！」

小寺主審
「デットボール！」

紀葉
「ヒィ～」

さとし

「すいません」

帽子を下げて謝るさとし。

紀葉
「大丈夫です」

それに応える紀葉さん

アナウンス
「四番、ショート、ウルトラマンゼロ」

「ウァァァァァァァァ！」

スタンドの熱気が高まる。

内野陣が集まり、剛田武だけ審判の所へ行き

剛田武
「ピッチャー交代、さとしに変わって俺、キャッチャーはドラえもん」

アナウンス
「ジャイアンズ、ピッチャー交代をお知らせ致します。キャッチャーの剛田武がピッチャー、ピッチャーのさとしに代わりましてキャッチャードラえもん」

ドラえもん
「今日はボクドラえもんです」

剛田武
「挨拶はいいよ、知ってるし」

ドラえもん
「3人で終わらすぞ」

剛田武
「OK」

クロえもん
「1人でトリプルプレーって考えは無いのか」

阪神虎之介
「動いてきた」

ｉｋｋｉ
「こっちどうします？」

阪神虎之介
「ゼロさんに任せるしかない…」

ウルトラマンゼロ
「デュワ」

剛田武
（行くぞ）

ドラえもん
（あいよ）

【ピシュ！】

【ガギィ！】

ピッキー
「いった！」

源静香
「当てただけだ！」

打球はライトへ

阪神虎之介
「ランナータッチアップ！」

ユーリ
「分かってる」

【バシィ】

出木杉
「バックホォム！」

出木杉がホームに送球！

ドラえもん
「ノーカット！」

同時にユーリさんが突入！

【バシィ！】

ドラえもんが捕球する！

ピッキー
「回れぇ！」

回り込むユーリさん！

飛びつくドラえもん！

【ズザザザザ…】

小寺主審
「アウト！」

回り込み失敗で、回り込もうとした瞬間にタッチアウトされた。

しかしランナーはそれぞれ進塁。

しら
「やったるか」

アナウンス
「五番、ファースト、しら」

剛田武
（ふぅ）

そして…

【バシィ！】

小寺主審
「ボールフォア！フォアボール！」

剛田武
「畜生…」

一死満塁

ピッキー
「来たか…」

アナウンス
「六番、レフト、ピッキー」

阪神虎之介
「さすが魔の６回、そして任せました！」

ピッキー
「食らいついて同点にしてやる」

外野陣は長打を警戒している。

チャンステーマが鳴り止まない。

「打て！！打て！！打て！！打て！！打ってぇ～打てぇ～打ちまく

れ！！」

ドラえもん
「ジャイアン！山場だぞ！」

剛田武
「わかってぇ！」

阪神虎之介はバットを持ってネクストバッターズサークルへ

セブンの独り言
「交代ですか」

阪神虎之介
「一応ね」

ピッキー
（決めてやる…）

剛田武第1球目

【ピシュ！】

ピッキー
（スライダー）

【カキィ】

西本塁審

「ファール」

「オォォ…」

どっちのスタンドからも溜め息と安堵の声が聞こえる。

剛田武
（二球目）

【ピシュ！】

ピッキー
（ボール…）

小寺主審
「ボール」

B●
S●
O●●

緊迫した空気になる。

ドラえもん
（ジャイアン、これ）

剛田武
（わかった）

【ピシュ！】

ピッキー
（ストレート）

【ガギィ！】

打球は三塁線を…

石山塁審
「ファール」

ドラえもん
（ヤバい…）

剛田武
（さすがピッキーさん）

ピッキー
（大変だよ）

ドラえもん
（これで2ストライク）

剛田武
（キメる？）

ドラえもん
（これでなぁ）

剛田武

（わかった）

【ピシュ！】

ピッキー
（しまった！）

ボールは緩いカーブだが

【カキィ】

剛田武
「なに！？」

打球はフラフラと一塁を

源静香
「ギリギリだぁ！」

ランナーは全員ホームへ

【ダン】

打球が着地…

判定は…

西本塁審
「フェア」

ピッキー
「よっしゃぁあ！」

次々にランナーが帰ってくる。

ピッキーさんは二塁へ

阪神虎之介
「オレの出番が無くなった」

走者一掃の逆転タイムリー２ベース

小説　４－２　ジャイ

剛田武
「く…」

源静香
「ピッキーさんが上手だったよ、武さんくよくよしないで」

剛田武
「抑えきれなかった…」

ドラえもんが審判に投手交代を告げる。

ドラえもん
「ジャイアンに代わり、ひろし」

アナウンス
「ジャイアンズ、ピッチャーの交代を致します、剛田武に代わりま

してひろし」

ひろし
「やっと登板だ」

ドラえもん
「抑えるぞ」

阪神虎之介
「じゃセブンさんお願いします」

セブンの独り言
「はい」

もしもフォアボールとかで同点にしか出来なかった場合に備え、準備していた阪神虎之介だったが、逆転したためお役ゴメンとなった。

セブンの独り言
「逆転の後は気が楽〜」

サードゴロに倒れた。

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】6回表（後書き）

【6回表終了】

小説　０１０　００３　―４

ジャイ　０１１　００　―２

【小説】

桜井秀哉／セブンの独り言

【ジャイアンズ】

さとし―剛田武―ひろし／剛田武―ドラえもん

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】6回裏

【ダダン！】「ピッキー！」【ダダン！】「ピッキー！」【ダダン！】「ピッキー！」

逆転タイムリー2ベースを放ったピッキーさんに殊勲のコールが聞こえる。

ピッキー
「どうも！」

阪神虎之介
「何かさ…、このまま勝てそうじゃない？あちらさんよく見たらまだ2安打じゃん」

ｉｋｋｉ
「そういえば」

桜井秀哉
「1点ビハインドから2点リードか」

セブンの独り言
「完投やりましょう！」

桜井秀哉
「そうですね」

アナウンス
「6回裏、ジャイアンズの攻撃は、9番、キャッチャー、ドラえも

ん」

【カキィン！】

桜井秀哉
「え？」

セブンの独り言
「うわぁ…」

再びバックスクリーン直撃
「ウワァァァ！」

セブンの独り言
「何だよコイツら」

小説　４－３　ジャイ

さらに
【２ゴ】
【右安】
【左安】

一死１、２塁

アナウンス

「三番、サード、クロえもん」

マウンド上にみんな集まる。

ベンチでは

阪神虎之介
「双樹槇さんかな？」

ｉｋｋｉ
「オレでもいいですよ」

阪神虎之介
「ｉｋｋｉさんは次の試合の先発ですから」

ｉｋｋｉ
「そうですけど」

阪神虎之介
「よし！」

阪神虎之介さんはベンチを出ると

阪神虎之介
「ピッチャーの桜井秀哉さんに代わり、双樹槇さんで空いたセンターにライトの千歳涼介さんが入ってライトにジョー・ギブケンさん」

小寺主審
「わかりました」

桜井秀哉
「降板だ」

セブンの独り言
「ｉｋｋｉさんか、監督か、双樹槇さんか」

アナウンス
「小説ウィテングス、守備交代をお知らせします、ピッチャー桜井秀哉に代わりまして双樹槇、ライトの千歳涼介がセンターにライトにはジョー・ギブケンが入ります」

剛田武
「変えてきた」

双樹槇
「それでは今日も」

セブンの独り言
「はい」

小寺主審
「プレイ！」

セブンの独り言
（勿論）

双樹槇
（はい）

投球と同時に立ち上がるセブンの独り言さん

敬遠である。

「ブー！ブー！」

レフトスタンドからブーイングの嵐だ。

小寺主審
「ボールフォア！フォアボール！」

双樹槇
「だって次は」

アナウンス
「四番、ピッチャー、ひろし」

双樹槇
「だもん♪」

完全にナメきった双樹槇さんはひろしを

【ガコ…】

双樹槇
「オーライ」

ピッチャーから

【バス】

ウルトラマンゼロ
「へーイ」

栄村塁審
「アウト」

二塁に入ったショートに投げて

ウルトラマンゼロ
「デュワ！」

ショートから

【パシ】

しら
「へーイ！」

西本塁審
「アウト！」

1－6－3のダブルプレー！

ひろし
「くっそ～」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】6回裏（後書き）

【6回裏終了】

小説　０１０　００３　―４

ジャイ　０１１　００１　―３

【小説】

桜井秀哉－双樹槇／セブンの独り言

【ジャイアンズ】

さとし－剛田武－ひろし／剛田武－ドラえもん

【小説本塁打】

しら1号？

【ジャイアンズ本塁打】

源静香3号？

さとし1号？

ドラえもん1号？

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】ほっとひと息（前書き）

試合ではありません。

応援団について軽く…

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】ほっとひと息

・中日ドラゴンズ竜心会
・阪神タイガース私設応援団（関東若虎会）
・中虎連合会（東京猛虎会、東京岡田会）
・ＭＶＰ（千葉ロッテ）

福岡ソフトバンクホークスと広島東洋カープと東京ヤクルトスワローズの応援団はガチ試合（プロ野球公式戦）の為欠席

まぁ実際有り得ない組み合わせの為、「いたとしたら」で考えてください。

ぶっちゃけ中虎みたいに解散、活動休止している応援団も書きましたので

この小説はスタンドの事や応援の事も書こうとしているのでよろしくお願いします。

ちょっと疲れたから書きました。

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】ほっとひと息（後書き）

次回から試合に戻ります。

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】7回表

アナウンス
「7回表、小説ウィテングスラッキー7の攻撃です」

阪神虎之介
「ひろし君のデータを見た所、彼は速球１５０ですが、変化球はフォークしか無い始末です」

双樹槇
「それで？」

阪神虎之介
「あっちの投手はひろしの他には雑魚です」

ピッキー
「シロえもんとかいないの？」

阪神虎之介
「シロえもんはスタンドにいるのを5回に発見しました」

ｉｋｋｉ
「5回にって…」

紀葉
「じゃあドラベースからはクロえもんとひろしだけですか？」

阪神虎之介
「はい」

千歳涼介
「それじゃあ行きますか」

アナウンス
「7回表、小説ウィテングスの攻撃は、八番、センター、千歳涼介」

千歳涼介
（ストレートとフォークしか無いならどっちかに絞れる）

【ピシュ！】

【バァン！】

小寺主審
「ストライク！」

コデライク

千歳涼介
（今のはストレートだったな）

ドラえもん
（次は）

【ピシュ！】

千歳涼介
（またストレート？）

【バァン！】

小寺主審
「ストライクツゥ」

続いてのボールはキャッチャー手前でバウンドするボールだった。

千歳涼介
（未来では小学生が１５０ｋｍも投げるのか）

ひろし
（凄いなぁ～、写真で見た西武ドームのまんまだ…）

ドラえもん
（キメ球で勝負！）

【ピシュ！】

千歳涼介
（フォーク！）

【カキィ！】

高々と打ち上げた。

ノビスケ
「オーライ」

【パシ】

栄村塁審
「アウト」

アナウンス
「9番、ライト、ジョー・ギブケン」

ジョー・ギブケン
「あのフォーク落ちるなぁ」

ドラえもん
「そうでしょ」

ジョー・ギブケン
「人の話勝手に聞くなよ…」

ドラえもん
（そのフォークの性能を見せてやろーぜ）

ひろし
（あぁ）

【ピシュ！】

【ダス！】

ジョー・ギブケン
（え？）

最初はストレートの軌道だったのにいきなり「ストーン」と落ちる

感じに落ちた。

ジョー・ギブケン
「何だよこのフォーク」

阪神虎之介
「アレどんくらい落ちた？」

ピッキー
「さぁ？」

ジョー・ギブケン
（2種類しか無いって…、これじゃ）

【ピシュ！】

【バァン！】

ジョー・ギブケン
（何打てって言えばいいの？）

書き忘れたけどこの前のボールはボールね

小寺主審
「ストライク」

コデライク

B ●
S ●

○●

ジョー・ギブケン
「しゃあない」

ジョー・ギブケンさんはバントの体勢

ドラえもん
（そんなもんで）

【ピシュ！】

ドラえもん
（ひろしのフォークが打てるか！！）

【ガキィ】

ドラえもん
「え？…グハァ…」

何とか当てた打球は後ろに逸れ、ドラえもんの顎に激突した。

ドラえもん
「痛ったぁ…」

ジョー・ギブケン
「ドンマイ（笑）」

ドラえもん

（威嚇しろ）

ひろし
（はい）

【ピシュ！】

インコースにストレート

ジョー・ギブケン
「ウワァ！」

【バシィ！】

小寺主審
「デットボール！」

ドラえもん
「え？」

小寺主審
「ヒジに当たっている！」

ジョー・ギブケン
「痛い…」

阪神虎之介
「スタッフ！」

スタッフ？

「はい」

ジョー・ギブケンさんはヒジを痛めたのヒジを押さえてか仰向けになったまま起き上がらない

チームスタッフが駆けつけて様子を見る。

阪神虎之介
「大丈夫かなぁ？」

ピッキー
「大事に至らなければいいけど」

「何晒しとんじゃひろし！」

「テメェ何の恨みがある！」

ライトスタンドからデットボールに対する野次が聞こえる。

ひろし
「く…」

ドラえもん
「気にするな、避けなかったのが悪い」

大事には至らなかった。

アナウンス
「バッターは一番、セカンド、ユーリ」

ユーリ
「あんにゃろ…」

睨みつけるユーリさん

ひろし
（あぁ…睨んでるよ…ヤダなぁ…）

ドラえもん
（よし、ここだ）

インコースを指示

ひろし
（マジかよ…さっきそこ当てただろ～）

阪神虎之介
（ドラえもんはインコースを指示、まぁそんぐらいの根性が無いとな）

ドラえもん
（さぁ！）

ひろし
（ヤ…ヤダ…）

ユーリ
（インコースに当てて見ろ…）

ひろし

（はぁ…）

ドラえもん
（ビビるな！）

ひろし
（もう知らん！）

【ピシュ！】

【カキィ】

三塁クロえもん真っ正面

クロえもん
「うぉわっと」

石山塁審
「アウト！」

二死一塁

アナウンス
「二番、ピッチャー、双樹槇」

双樹槇
（当てたら殺す…）

ひろし
（コイツもか…）

何とか外角に避けてショートゴロでチェンジ

阪神虎之介
「後で報復します？」

ｉｋｋｉ
「当てるの？」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】7回表（後書き）

【7回表終了】

小説　０１０　００３　０　―４

ジャイ　０１１　００１　―３

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】7回裏

アナウンス
「7回裏、ジャイアンズ、ラッキー7の攻撃です」

剛田武
「この回逆転するぞ！」

アナウンス
「バッターは五番、ファースト、源静香」

源静香
「行くぞオラァ！」

セブンの独り言
（相変わらず口が悪い…）

双樹槇
（オテンバ…）

セブンの独り言
（インコースにスライダー）

双樹槇
（はいよ）

【ピシュ！】

源静香

「キャ！」

【バァン！】

小寺主審
「ストライク！」

コデライク

源静香
「やってくれるじゃないの…」

B ●●
S ●
O

双樹槇
（次は…）

セブンの独り言
（落とせ）

双樹槇
（わかった）

【ピシュ！】

【カキィ】

叩きつけるようなバッティングは三塁へ

源静香
「あぁん！コン畜生！」

紀葉
「は～い」

打球を素手で捕り、一塁送球

【バシィ！】

【ズン！】

西本塁審
「アウト！」

しら
「ギャア！」

いきなりしらさんが倒れた。

阪神虎之介
「！！！」

ユーリ
「どうしました？」

セカンドが駆け寄る

しら

「足を…」

ウルトラマンゼロ

「俺は見てたぞ！こいつ足踏みやがった！」

ウルトラマンゼロさんは源静香を指差した。

源静香

「んだよ悪いのか？」

その時

【ドーン！】

全員

「！！？」

セブンの独り言さんが源静香に体当たり

セブンの独り言

「このアマ調子こくな！！」

紀葉

「や、辞めろ！」

阪神虎之介

「アレはマズい…」

阪神虎之介もベンチから飛び出す。

ドラえもん
「しずかちゃんを助けろ！」

両軍入り乱れる。

小寺主審
「止めんか！！」

セブンの独り言さんの怒りは収まらず、既に源静香はボコボコにされている。

ピッキー
「離せ！離せ！」

紀葉
「おい！落ち着け！」

阪神虎之介
「セブンさん辞めろ！」

結果…

西本塁審
「暴力行為によりセブンの独り言退場！」

セブンの独り言
「何だって受けてやる！」

ドラえもん
「しずかちゃん大丈夫？」

源静香
「え…えぇ…」

しかし口と鼻から流血している。

選手の交代を告げる。

阪神虎之介
「キャッチャー、ピッキーさんで空いた外野には鷹峯琺さんで一応しらさんが足の痛みを訴えている為ファースト、上原大人さん」

小寺主審
「わかりました」

アナウンス
「……以上に変わります」

阪神虎之介
「嫌な空気だ」

ｉｋｋｉ
「ピリピリしてる」

アナウンス
「バッターは六番、ノビスケ」

ノビスケ
「畜生」

ピッキー
「荒れるねぇ」

双樹槇
（セブンさんが切れるとは…）

ピッキー
（内角に直球）

【ピシュ！】

ノビスケ
「こんにゃろ！」

【カギィ】

ボールはセカンドを…

ユーリ
「抜けたぁ！」

センター前ヒット

阪神虎之介
（ドラえもんに回すな…）

アナウンス

「七番、センター、安雄」

安雄
「しずかちゃんの敵はとってやる…」

ピッキー
（1回ボールになるフォーク）

双樹槇
（はい）

【ピシュ！】

【カキィ】

紀葉
「バックバック…」

三塁紀葉の頭上を

【バシ】

石山塁審
「アウト！」

安雄
「なに！」

紀葉
「ファースト！」

【ピシュ！】

【バン！】

上原大人
「アウト！」

西本塁審
「アウト」

「オォォォォオ！」

【ダダン！】「のーりーは！」【ダダン！】「のーりーは！」【ダダン！】「のーりーは！」

紀葉さんはファウルゾーンギリギリでダイビングキャッチをした後、振り向いて1塁ランナーが既に2塁を回ったのを見ると急いで1塁に送球したのだった。

千歳涼介
「ナイス」

ユーリ
「スーパープレーですよ」

紀葉
「まぁな」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】7回裏（後書き）

【7回裏終了】

小説　０１０　００３　０　―４

ジャイ　０１１　００１　０　―３

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】8回表

ドラえもん
「ひろしどうした？」

ひろし
「一塁ベンチが…」

紀葉
「やったる」

ピッキー
「しらさんの敵を討つ！」

ひろし
「殺気立っているんですけど」

ドラえもん
「気にするな」

アナウンス
「8回表、小説ウィテングスの攻撃は、三番、サード、紀葉」

紀葉
【メラメラメラメラ】

ひろし
「うぅ…」

ドラえもん
（気迫なんて気にするな）

ひろし
（ウン）

【ピシュ！】

【バァン！】

小寺主審
「ボール」

紀葉
「……」
紀葉さんは黙ってバットを強く握る。

ひろし
「怖い…」

【ピシュ！】

【カキィン！】

ひろし
「あぁ…」

打球はレフトスタンドのはるか左へ…

石山塁審

「ファウル」

ドラえもん
「危ない、危ない」

クロえもん
「ひろし！どうしたんだよ！」

ひろし
「ゴ、ゴメン」

クロえもん
「スタンドでみかちゃんが見てるんだぞ！」

ひろし
「そうだね…」

【ピシュ！】

【バァン！】

小寺主審
「ボールツゥ」

紀葉
「……」

ひろし
「はぁ～」

クロえもん
「ひろし…」

【ピシュ！】

【バァン！】

小寺主審
「ボールスリー」

ドラえもん
「タイム！」

ドラえもんがマウンドに駆け寄る。

ドラえもん
「ひろし、しっかりしろ」

ひろし
「ゴメン、何かバッターの気迫が凄いからさ…」

ドラえもん
「そんなもん気にするな、ミットだけ見ろ」

ひろし
「わかった」

小寺主審
「プレイ！」

ひろし
（ミットだけミットだけ）

【ピシュ！】

【カキィン！】

【バシィ！】

石山塁審
「アウト！」

紀葉
「く…」

ひろし
「ナイスキャッチ！クロ！」

クロえもん
「任せろ！」

アナウンス
「四番、ショート、ウルトラマンゼロ」

ウルトラマンゼロ
「デュワ！」

【ピシュ！】

【カキィン！】

【バシィィ！】

ひろし
「ヒィィ…」

小寺主審
「アウト！」

アナウンス
「五番、ファースト、上原大人」

上原大人
「しらさんの敵！」

【ピシュ！】

【カキィ】

【バシィ！】

ノビスケ
「ヘーイ！」

栄村塁審
「アウト！」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】8回表（後書き）

【8回表終了】

小説	0	1	0	0	0	3	0	0	—4
ジャイ	0	1	1	0	0	1	0	0	—3

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】8回裏

【ダダン】「ふーたーき！」【ダダン】「ふーたーき！」【ダダン】「ふーたーき！」

マウンドに上がる双樹槇さんにコールが送られる。

ピッキー
「あと2回です」

双樹槇
「はい」

ピッキー
「抑えましょう！」

双樹槇
「はい！」

アナウンス
「8回裏、ジャイアンズの攻撃は、八番、レフト、はる夫」

はる夫
「同点…同点にするぞ！」

双樹槇
（やってみろや）

【ピシュ！】

ボールは低めへ

【バシィ！】

小寺主審
「ボール！」

双樹槇
（少し下に行ったな…）

ピッキー
（次は入れてください）

双樹槇
（はい）

【ピシュ！】

はる夫
「うぉぉぉ！」

【カキィ】

当てただけ

双樹槇
「ＯＫ、ＯＫ」

一塁送球

【バシィ】

西本塁審
「アウト」

はる夫
「畜生…」

ピッキー
（さて…）

アナウンス
「9番、キャッチャー、ドラえもん」

ピッキー
（これだよ）

「ドラえもん～！」

双樹槇
（一発屋だ…）

ドラえもん
（しずかちゃん…）

双樹槇
（こっちも重要な戦力を二人失っているんでね）

ピッキー

（インコースに投げろ）

【ピシュ！】

【カキィーン！】

双樹槇
「なに？」

ピッキー
「若干ボール気味だったのに打った！？」

打球は左中間の

【ダス！】

千歳涼介
「間に合わない！」

ど真ん中に落下！

ドラえもん
「よっしゃあ！」

２ベースヒット

双樹槇
「っち、初球を打たれたか…」

アナウンス
「一番、ショート、スネ夫」

阪神虎之介がマウンドに向かう。

阪神虎之介
「『魔の６回』と共に『魔の８回』と呼ばれる８回だ、これで試合の流れが決まる」

双樹槇
「はい」

阪神虎之介
「今から肩作るから９回は任せろ」

双樹槇
「抑えます！」

そう言って阪神虎之介はベンチに戻る。

阪神虎之介
「ｓｃａｒｌｅｔさん、ブルペンキャッチャーお願いします」

ｓｃａｒｌｅｔ
「はい」

双樹槇
「よし！」

一回ロージンを触って落ち着かせた後、スネ夫を見る。

スネ夫
（僕だって…）

スネ夫は左打者なので双樹槇さんも左で投げる。

双樹槇
（ホームは踏ません！）

【ピシュ！】

【バーン！】

ピッキー
「あ！」

ドラえもん
「よし！」

双樹槇
「しまった！」

投球はキャッチャーの前で高く跳ね、ドラえもんは3塁へ

「かっ飛ばせ～、ドラえもん！ゴーゴーレッツゴー！ドラえもん！」

【パパー、パパー、パパパパパ】

昔は清原和博のテーマだったチャンステーマが流れる。

右往左往に人が走る。（見りゃわかる）

双樹槇
（どうする？）

ピッキー
（低め禁物、落ちるボール禁物、制限がかかるなぁ～）

双樹槇
（アウトコースの直球？）

ピッキー
（そうだ、左だからレフトからじゃ浅ければタッチアップできない）

双樹槇
（わかった）

【ピシュ！】

【カキィ】

打球はショート、ウルトラマンゼロの

ウルトラマンゼロ
「デュワ！」

グラブの中に…

【ダン！】

入らない！

千歳涼介
「バックボールさすか！！」

千歳涼介さんが捕って矢のような返球。

しかしドラえもんは走ってなかった。

最後の最後まで打球を見極めた結果、本塁突入は無理と判断したのだ。

アナウンス
「二番、ライト、出木杉」

出木杉
「打つ！」

一死1、3塁

クロえもん
【ブゥン！ブゥン！】

ネクストバッターズサークルでクロえもんが素振りをしている。

双樹槇
（出木杉は抑えないと）

「かっ飛ばせ～出木杉！ゴーゴーレッツゴー！出木杉！」

チャンステーマも最高潮だ！

ライトスタンドでは手を合わしている人もいる。

一塁ブルペンでは阪神虎之介が9回のリリーフの為、投球練習を始めてる。

ピッキー
（双樹槇さん頑張れ）

双樹槇
「ふぅ～」

サインを確認して、投げる。

【バシィ！】

小寺主審
「ストライク！」

ピッキー
「ナイスボール」

【パシ】

双樹槇さんは再びロージンに手を添える。

双樹槇
（よし！）

サインを確認して、投げる！

出木杉
（アウトコース、シメタ！）

【ガキィ！】

ボールは後ろへ

小寺主審
「ファウルボール」

出木杉
「フォークだったか…」

ピッキー
（簡単には打たせないよ）

双樹槇
（桜ヶ丘戦と全然違うや）

ピッキー
（インコースに直球）

双樹槇
（わかった）

【ピシュ！】

ピッキー

「あ！」

出木杉
「モラッタァ！」

【カキィーン！】

双樹槇
「しまったぁ！」

ボールは甘く入りど真ん中に

打球はグングン伸びて…

レフトスタンドへ…

「ワァァァァァァァァァァァ！！」

双樹槇さんがマウンドで肩を落とす。

双樹槇
「あぁ…」

出木杉
「やったぁ！やったぁ！」

逆転3ランホームラン

見事出木杉がホームイン！

そしてナインとハイタッチ

阪神虎之介が早くもブルペンから出てくる。

その阪神虎之介の代わりにｉｋｋｉさんが審判に交代を告げる。

双樹槇
「すいません」

阪神虎之介
「まだ試合は終わってませんよ」

紀葉
「そうですよ！まだ８回ですよ！」

アナウンス
「小説ウィテングス、守備交代をお知らせします。ピッチャーの双樹槇がライト、ライトのジョー・ギブケンに代わりまして阪神虎之介、ピッチャー、阪神虎之介」

小説　４－６　ジャイ

アナウンス
「バッターは三番、サード、クロえもん」

クロえもん
「２点じゃダメだ！」

阪神虎之介

（クロえもんか…）

阪神虎之介は藤川球児みたいに独特なテンポをとって投げた。

【バァーン！】

小寺主審
「ストライク！」

コデライク

阪神虎之介
（まず初球はストライク…）

ピッキー
（次は変化球で）

【ピシュ！】

クロえもん
（カーブ！）

【ガギ！】

小寺主審
「ファウル」

阪神虎之介
（トドメはストレート！）

【ピシュ！】

【バァーン！】

小寺主審
「スットライクバッターアウト！」

コデライク

クロえもん
「あそこでストレート…」

続くひろしも凡退した。

阪神虎之介
「逆転するぞ！」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】8回裏（後書き）

【8回裏終了】

小説	0	1	0	0	0	3	0	0	—	4
ジャイ	0	1	1	0	0	1	0	3	—	6

【小説】

桜井秀哉－双樹槇－阪神虎之介／セブンの独り言－ピッキー

【ジャイアンズ】

さとし－剛田武－ひろし／剛田武－ドラえもん

【小説本塁打】

しら1号？

【ジャイアンズ本塁打】

源静香3号？
さとし1号？
ドラえもん1号？
出木杉2号？

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】9回表

阪神虎之介
「土壇場の逆転劇だ！ラストは逆転の逆転で締めるぞ！」

全員
「はい！」

アナウンス
「九回表、小説ウィテングスの攻撃は、六番、キャッチャー、ピッキー」

「ピッキーさん！」

「頼む！」

ピッキー
「塁に出る！」

ドラえもん
（させるか、初球ストレート）

ひろし
（はい）

【ピシュ！】

【バシン！】

小寺主審
「ストライク！」

コデライク

ピッキー
（さっきよりも威力がある…）

ドラえもん
（いいぞ…）

【ピシュ！】

【ガギィ】

小寺主審
「ファウルボール！」

ピッキー
（手前で伸びるなぁ）

ドラえもん
（見せ球無し！一気に決めるぞ！）

ひろし
（おう！）

ピッキー
（見せ球はあるよな？）

【ピシュ！】

ピッキー
「なに！！」

【バシン！】

小寺主審
「スットライクバッターアウト！！」

コデライク

ピッキー
「あ～、畜生！」

裏をかかれ思わずバットを叩き付ける。

アナウンス
「七番、レフト、鷹峯琟」

鷹峯琟
「塁に出るのが優先…」

しかし…

【カキン】

鷹峯琟
「あぁ…」

ピッチャーゴロ

これで2アウト

アナウンス
「八番、センター、千歳涼介」

千歳涼介
「俺で終わってたまるか…」

ドラえもん
「後1人！」

ジャイアンズナイン
「オー！」

レフトスタンドから「後1人コール」が始まった。

千歳涼介
（負けるか…）

そしてカウントは

B●●●
S●●
O●●

阪神虎之介
「回せぇ！」

ひろし
（これが…ラストだぁ！）

【ピシュ！】

千歳涼介
（ストレート…）

千歳涼介さんが振りに行く！

【バシン！】

千歳涼介
（！！）

小寺主審
「スットライクバッターアウト！！ゲームセット！」

ひろし
「やったぁ！」

ドラえもん
「２連勝だ！」

阪神虎之介
「あ～あ…」

千歳涼介
「……」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】9回表（後書き）

【試合終了】

小説	0	1	0	0	0	3	0	0	0	—	4
ジャイ	0	1	1	0	0	1	0	3	X	—	6

【小説】

桜井秀哉－双樹槇－阪神虎之介／セブンの独り言－ピッキー

【ジャイアンズ】

さとし－剛田武－ひろし／剛田武－ドラえもん

【小説本塁打】

しら1号？

【ジャイアンズ本塁打】

源静香3号？
さとし1号？
ドラえもん1号？
出木杉2号？

【勝利投手】

ひろし（1勝）

【敗戦投手】

双樹槇（1敗）

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】試合終了後

アナウンサー
「放送席！放送席！本日のヒーローです！本日のヒーローは出木杉選手！見事逆転3ランホームランを放ちました！！」

双樹槇
「……」

紀葉
「……」

～ロッカールーム～

阪神虎之介
「ま、仕方ないです」

紀葉
「あの、しらさんは？」

阪神虎之介
「軽い捻挫です次の試合には出れます」

紀葉
「よかった」

ｉｋｋｉ
「次は？」

阪神虎之介
「明治神宮球場での、学園都市ゴールデンガールズ戦です」

ピッキー
「今度は『とある』ですか…」

阪神虎之介
「現地集合ですのでお気をつけて」

全員
「はぁ～い」

阪神虎之介
「それと、次の試合から補強選手が来ます」

全員
「えぇ！！」

阪神虎之介
「今紹介しときますね～」

そう言って阪神虎之介が手を叩くと

【ガラッ】

三人入ってきた。

ｓｃａｒｌｅｔ
「え？」

ユーリ
「うそ…」

阪神虎之介
「レンタル選手として前半戦活躍してくれる阪神タイガースから起こしのザラテ選手と次試合から参加の霧嶺劉斗選手、そして、熊谷政秀選手です」

全員
「オ～」

千歳涼介
「質問です、『レンタル選手』って何ですか？」

阪神虎之介
「期限付きで所属する選手の事です」

千歳涼介
「なる程」

紀葉
「よくプロ選手連れてこれましたね」

阪神虎之介
「彼は育成選手なので」

ｉｋｋｉ
「なる程」

阪神虎之介
「それでは皆さん、次回は勝つぞ！！」

全員
「オォ！」

【ジャイアンズ対小説ウィテングス】試合終了後（後書き）

次回は各チームの新入団選手発表会

ザラテ選手…阪神タイガース背番号１１６

霧嶺劉斗選手…作者さん

熊谷政秀選手…単に補強

新入団選手発表会（前書き）

プロ野球ファンなら分かる「ネタキャラ」も…

新入団選手発表会

【小説ウィテングス】

補強選手
・ザラテ（阪神から）
・霧嶺劉斗（新入団）
・熊谷政秀（補強）

阪神虎之介
「小説ウィテングスはザラテ選手、霧嶺劉斗選手、熊谷政秀選手の入団を発表します」

【カシャカシャカシャカシャ】

記者？
「監督！ズバリ補強の点は何ですか？」

阪神虎之介
「ウィテングスは現在、先発のｉｋｋｉさん、桜井秀哉さんと中継ぎは外野手兼任の双樹槇さんに抑えが私と投手不足なので阪神タイガースから『レンタル選手』という形で育成選手のザラテ選手を獲得しました」

記者？
「打線の方は？」

阪神虎之介
「紀葉さん、ウルトラマンゼロさん、しらさんのクリーンアップに

ピッキーさんと非常に良い選手が揃っているので大丈夫です」

【桜ヶ丘ティータイム】

補強選手
・高町なのは（リリカルなのは）
・グラマン（元中日）
・メンチ（元阪神）

山中さわ子
「桜ヶ丘ティータイムは高町なのは選手、グラマン選手、メンチ選手の入団を発表します」

【学園都市ゴールデンガールズ】

補強選手
・高坂桐乃（俺妹）
・ヴィータ（なのは）

木山春生
「学園都市ゴールデンガールズは以上の選手の入団の合意を発表します」

【ジャイアンズ】

補強選手
・エーモンド（助っ人）
・パクえもん（助っ人）
・ゴンザレス（外人）

剛田武

「ジャイアンズはエーモンド外野手、パクえもん捕手、ゴンザレス投手の入団を発表します」

【マリオマリナーズ】

補強選手
・タフィローズ（元近鉄他）
・李スンヨプ（元オリックス他）

マリオ
「マリナーズはタフィローズさんをコーチ兼選手に李スンヨプ選手のレンタルが決まりました」

【インデックス】

補強選手
・亀田（パワポケ）
・具田（パワポケ）
・落田（パワポケ）
・李柄圭（元中日）

一方通行
「以上だ！」

【亀有ポリスマンズ】

・補強選手
無し

両津勘吉
「金が勿体無い！」

【ポケットモンスターズ】

補強選手
無し

オーキド
「大丈夫じゃ」

新入団選手発表会（後書き）

次回から「学園都市ゴールデンガールズ対小説ウィテングス」

【学園都市ゴールデンガールズ対小説ウィテングス】試合開始前の前（前書き）

選手各自の視点ですが…

【学園都市ゴールデンガールズ対小説ウィテングス】試合開始前の前

～阪神虎之介ｓｉｄｅ～

明治神宮野球場までは選手各自が現地集合だ。

阪神虎之介は東京メトロ銀座線で外苑前を目指していた。

阪神虎之介
（１勝１敗か…）

目の前のスポーツ新聞には【逆転！逆転！また逆転！最後は出木杉３ラン！！】という見出しが載っている。

勿論あの試合の事だ

阪神虎之介
（失投が残念だ）

銀座線で外苑前に下車すると

？？？

「ねぇここが近いって本当？」

？？？

「そうだって」

？？？

「本当？」

それぞれ紀葉さん、しらさん、ピッキーさんのサポートユニフォームを着た「個性豊かな」三人組がいた。

阪神虎之介
（今日の試合の観客か…）

阪神虎之介はそのまま外苑前から神宮球場へ向かった。

～紀葉ａｎｄしらｓｉｄｅ～

紀葉さんはしらさんは現在、神宮バッティングドームにいる。

【カキィン！】

【カキィン！】

【カキィン！】

【カキィン！】

紀葉
「しらさん足大丈夫ですか？」

しら
「もう平気です」

紀葉

「よかった」

しら

「でもセブンさんが退場処分の影響で今日の試合出られないと」

紀葉

「そうですか…」

～ｉｋｋｉａｎｄピッキーｓｉｄｅ～

ｉｋｋｉさんは神宮の室内練習場を借りてピッキーさんと投球練習している。

【バシィ！】

ピッキー

「ナイスボール」

ｉｋｋｉ

「どうも」

ピッキー

「はぁ、今日オレがマスクか…」

ｉｋｋｉ

「そういえばセブンさんは今日出場禁止でしたよね」

ピッキー

「そうなんだよな…」

【学園都市ゴールデンガールズ対小説ウィテングス】試合開始前の前（後書き）

全員分は無理です。

すいません…

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6439z/

熱血！アニメゲームリーグ戦

2012年1月5日01時52分発行